

景気動向指数の見方

平成16年11月

石川県県民文化局県民交流課
広報広聴室・統計情報室

目 次

I 景気動向指数とは	1
(景気動向指数(図－1、図－2、図－3))	2)
II 景気動向指数の算出方法	1
(景気動向指数変化方向表(表－1))	3)
III 景気動向指数の使い方	1
IV 景気基準日付	4
1 景気循環の検出と転換点の設定	4
2 ヒストリカルD I	4
3 景気基準日付	6
4 石川県一致指数の推移	7
V 累積景気動向指数	8
1 累積景気動向指数	8
2 C D Iと累積D I	8
資 料 編	
(1) 個別指標グラフ 先行系列	9
(2) 個別指標グラフ 一致系列	15
(3) 個別指標グラフ 遅行系列	25

景 気 動 向 指 数 (D I)

I 景気動向指数とは

景気を敏感に反映する指標を集めて一本化した総合的な景気指標のことで、景気の動きを立体的に把握できるように、先行指数、一致指数、遅行指数の3つを作成しています。

先行指数 … 景気の先行きを予知するもの(図－1)

一致指数 … 景気そのものの動きを示すもの(図－2)

遅行指数 … 景気の動きを最終的に確認するもの(図－3)

II 景気動向指数の算出方法

D I は、先行、一致、遅行指数それぞれについて、各系列の3か月前の指標と比較して増加している場合をプラス、減少している場合をマイナスとし、総系列数のうちプラスの系列数(数値に変動がない場合は0.5のプラスとみなす)の割合を百分率で表したもので、50%を上回れば景気は拡張、下回れば後退とみられています。

$$D I = \frac{\text{増加(拡張)系列数}}{\text{採用系列数}} \times 100 (\%)$$

例えば、一致指数の7月分(表－1)を上当てはめると

$$D I = \frac{5 (\text{拡張系列数})}{9 (\text{採用系列数})} \times 100 (\%) = 55.6 \text{ となります。}$$

III 景気動向指数の使い方

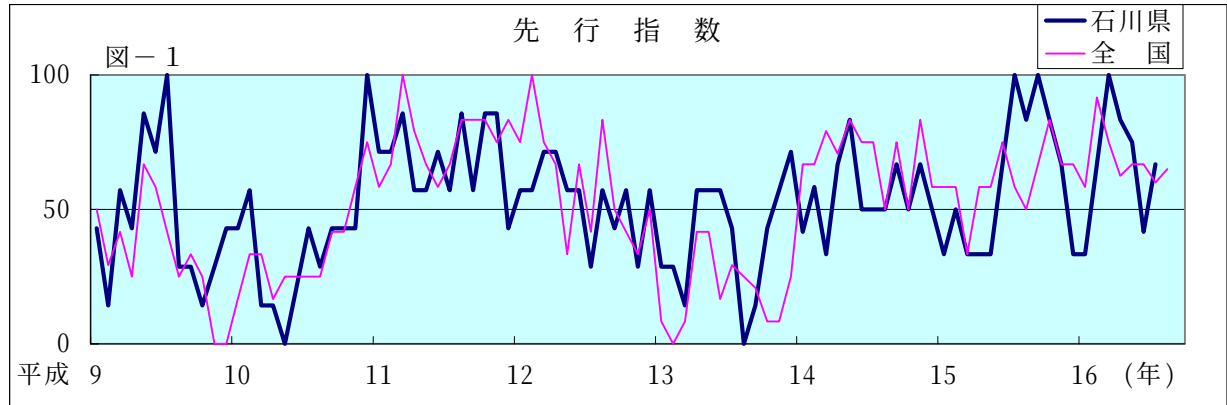
景気動向指数には大きく分けて2つの利用方法があり、1つは過去における景気循環を検出する、つまり拡張、後退といった景気の局面と転換点を求めること、もう1つは景気の現状判断及び将来の予測をするということです。

(景気の現状判断と先行きの予測)

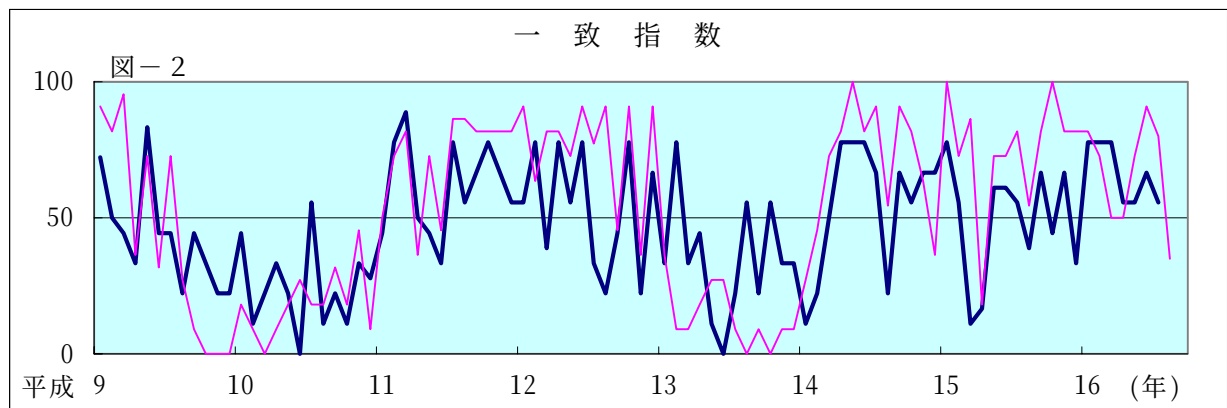
景気の判断については、一致指数が50%ラインの上にあるか下にあるかに注目します。だいたい5か月連続して50%を上回っていれば、景気は拡大局面にあると判断できます。

これに対し、景気の先行きを読むためには、先行指数の動きを中心としながら、一致指数、遅行指数の動きをあわせて総合的に考察する必要があります。

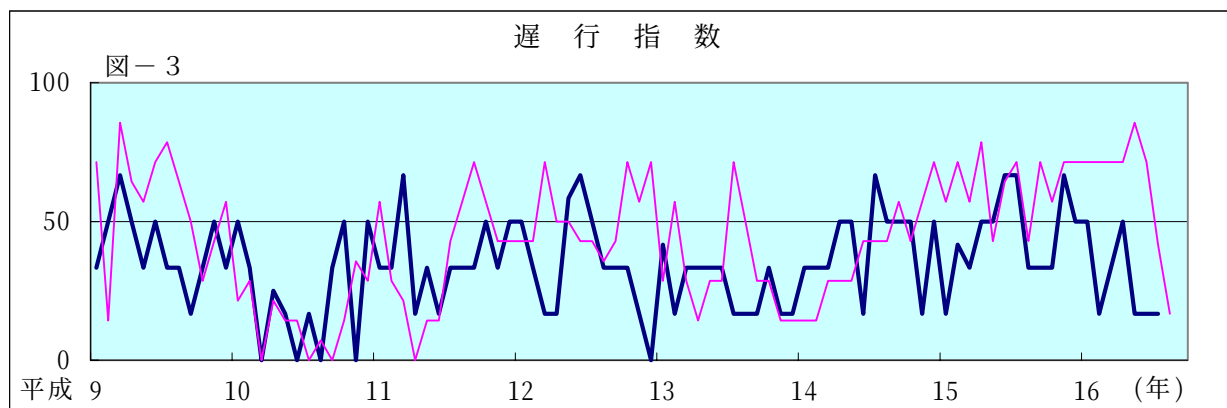
景気動向指数



- ・7月の先行指数は、新車新規登録数等2指標の変化方向がプラスになったことから、2ヶ月ぶりに50%を上回った。



- ・7月の一致指数は、建築着工床面積の変化方向がマイナスになったが、5指標がプラスの変化方向を示したことから、7ヶ月連続して50%を上回った。



- ・7月の遅行指数は、雇用保険受給者数の変化方向がプラスに転じたが、営業倉庫在庫高の変化方向がマイナスになったことから3ヶ月連続して50%を下回った。

景気動向指数(D I)変化方向表

表－1

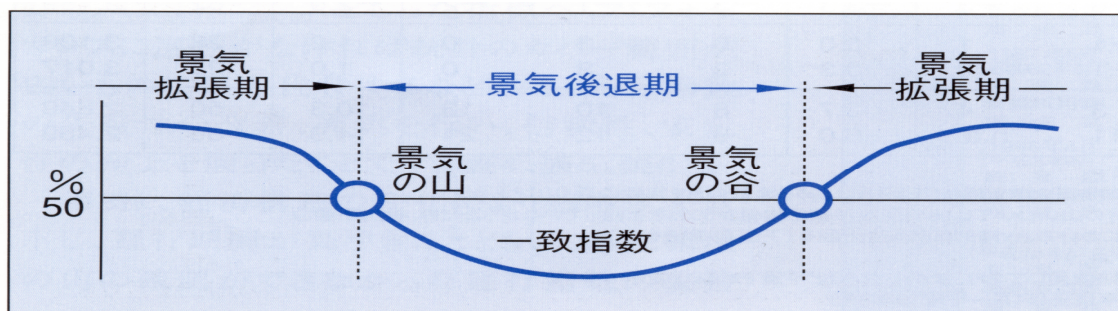
系列名		平成15年					平成16年						
		8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
先行系列	1 新設住宅着工戸数	＋	＋	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋
	2 所定外労働時間	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋	0	0	－
	3 東証株価指数	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	－
	4 新車新規登録数	－	＋	＋	－	－	－	＋	＋	－	－	－	＋
	5 新規求人数	＋	＋	＋	＋	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋
	6 銀行貸出残高	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	＋
	拡張系列数	5	6	5	4	2	2	4	6	5	4.5	2.5	4
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	先行指数	83.3	100.0	83.3	66.7	33.3	33.3	66.7	100.0	83.3	75.0	41.7	66.7
一致系列	1 有効求人倍率	＋	＋	＋	＋	＋	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋
	2 大口電力使用量	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋
	3 鉱工業生産指数(総合)	－	－	－	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋
	4 鉱工業生産指数(機械)	－	＋	－	＋	－	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋
	5 鉱工業生産指数(繊維)	0	＋	＋	－	－	＋	＋	＋	－	－	－	－
	6 百貨店販売額	＋	＋	＋	＋	－	＋	－	－	－	－	－	－
	7 温泉旅館宿泊客数	＋	＋	－	－	＋	＋	＋	－	－	－	－	－
	8 単位労働コスト	－	－	－	＋	－	＋	＋	＋	－	＋	＋	＋
	9 建築着工床面積	－	－	－	＋	－	＋	－	＋	＋	－	＋	－
	拡張系列数	3.5	6	4	6	3	7	7	7	5	5	6	5
	採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	一致指数	38.9	66.7	44.4	66.7	33.3	77.8	77.8	77.8	55.6	55.6	66.7	55.6
遅行系列	1 不渡手形発生率	－	＋	－	＋	＋	＋	－	－	＋	－	－	－
	2 雇用指数	－	－	－	－	＋	－	－	－	－	－	－	－
	3 賃金指数	－	－	－	＋	－	＋	－	＋	＋	－	－	－
	4 貸出約定平均金利	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	5 雇用保険受給者数	＋	－	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	＋	－	＋
	6 営業倉庫在庫高	＋	＋	＋	＋	－	－	－	－	－	－	＋	－
	拡張系列数	2	2	2	4	3	3	1	2	3	1	1	1
	採用系列数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	遅行指数	33.3	33.3	33.3	66.7	50.0	50.0	16.7	33.3	50.0	16.7	16.7	16.7

(注) 季節変動による影響を取り除き、3ヶ月前に比べて上がった場合は＋、下がった場合は－、変動がなかった場合0で示してある。

IV 景気基準日付

1 景気循環の検出と転換点の設定

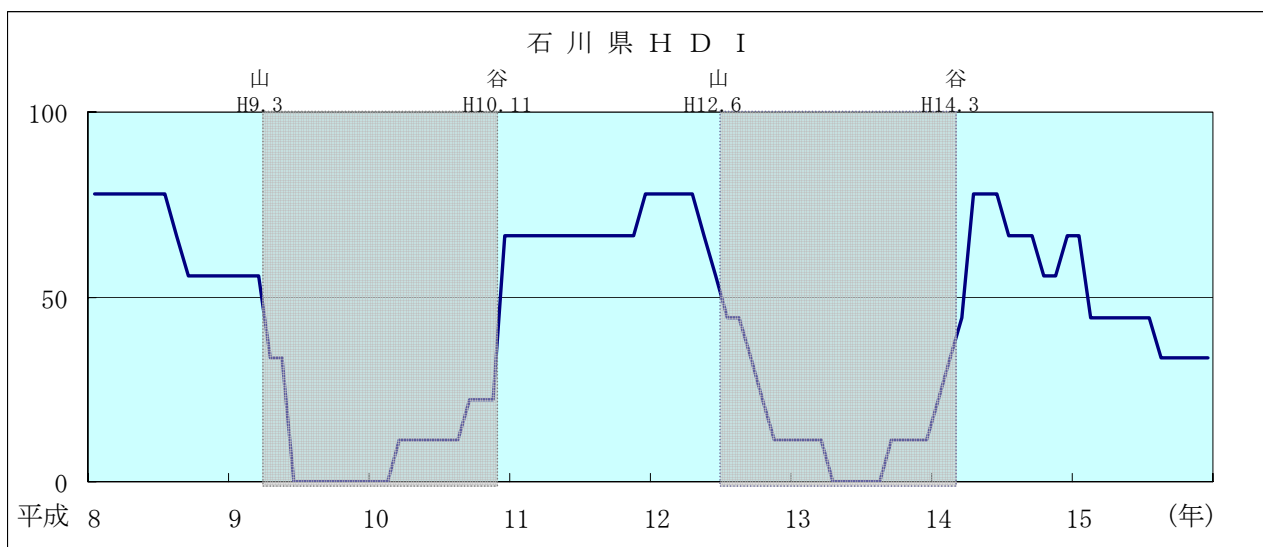
過去における景気循環の特徴の比較、つまり景気変動分析を行う場合には、まず景気の転換点(山または谷)をとらえ、景気の拡張期、後退期に分けて考えることが出発点となります。この転換点を景気基準日付といい、設定する技術的な方法としてHD Iを用いています。



一致指数の50%ラインを景気の局面と転換点の基準とします。指数が50%を上回っているときは過半数の系列が上昇していることを表わしています。この時は、経済活動も総体として上昇傾向にあり、景気は拡張局面にあるわけです。逆に指数が50%を下回っているときは、景気は後退局面にあるということになります。

したがって、50%を切るときが景気の拡張局面と後退局面を分ける分岐点、つまり転換点になります。この場合に、50%ラインを下から上に切るときを**景気谷**、逆に上から下に切るときを**景気山**と名づけています。

2 ヒストリカルD I (HD I)



HD I は、個々の採用系列ごとに山と谷を設定し(これを特殊循環日付といいます)、山から谷に至る期間は全て下降(マイナス)、谷から山に至る期間は全て上昇(プラス)としてDIを算出したものです。個々の系列における月々の不規則な動きをならして変化方向を決めているため、それから計算されるHD Iは比較的なめらかで、景気の基調的な動きを反映したものになります。

基準日付の設定が具体的にどのように行われているか第12循環を例にとってみると下記のとおりになります。

(1) 第12循環の山

年 月	平成 9 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 有効求人倍率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2 大口電力使用量	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
3 鉱工業生産指数(総合)	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
4 鉱工業生産指数(機械)	+	+	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—
5 鉱工業生産指数(繊維)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 百貨店販売額	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 温泉旅館宿泊客数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 単位労働コスト	+	+	+	—	—	—	—	—	—	—	—	—
9 建築着工床面積	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
拡張系列数	5	5	5	3	3	0	0	0	0	0	0	0
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
一致指数	55.6	55.6	55.6	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

(2) 第12循環の谷

年 月	平成 10 年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1 有効求人倍率	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
2 大口電力使用量	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
3 鉱工業生産指数(総合)	—	—	—	—	—	—	—	—	+	+	+	+
4 鉱工業生産指数(機械)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	+
5 鉱工業生産指数(繊維)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6 百貨店販売額	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
7 温泉旅館宿泊客数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
8 単位労働コスト	—	—	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+
9 建築着工床面積	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
拡張系列数	0	0	1	1	1	1	1	1	2	2	2	6
採用系列数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
一致指数	0.0	0.0	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2	22.2	66.7

景気基準日付の山は、景気の拡張期から後退期への転換点すなわち指数が50%を下回った直前の月、平成9年3月になります。逆に谷は、後退期から拡張期への転換点で指数が50%を上回った直前の月、平成10年11月になります。

3 景気基準日付

景気基準日付は、HD I (※)の動きを中心にしつつ、DI や他の主要経済指標等の動きを勘案して設定されています。

景気基準日付(石川県)

	谷	山	谷	期 間		
				拡張	後退	全循環
第 6 循環	昭和	昭和 45 年 2 月	昭和 46 年 5 月		15 カ月	
第 7 循環	46 年 5 月	48 年 11 月	50 年 3 月	30 カ月	16 カ月	46 カ月
第 8 循環	50 年 3 月	51 年 10 月	52 年 7 月	19 カ月	9 カ月	28 カ月
第 9 循環	52 年 7 月	55 年 2 月	57 年 9 月	31 カ月	31 カ月	62 カ月
第 10 循環	57 年 9 月	60 年 7 月	62 年 2 月	34 カ月	19 カ月	53 カ月
第 11 循環	62 年 2 月	平成 3 年 5 月	平成 5 年 11 月	51 カ月	30 カ月	81 カ月
第 12 循環	平成 5 年 11 月	9 年 3 月	10 年 11 月	40 カ月	20 カ月	60 カ月
第 13 循環	10 年 11 月	(12 年 6 月)	(14 年 3 月)	(19 カ月)	(21 カ月)	(40 カ月)

(注) ()は暫定の山谷

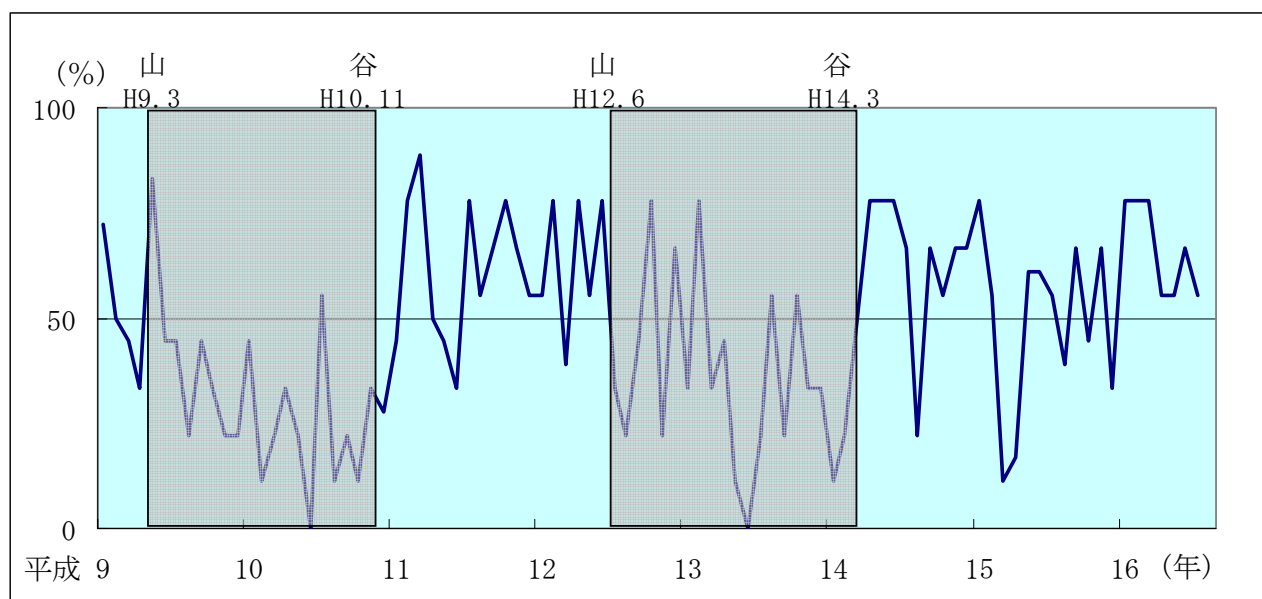
景気基準日付(全国)

	谷	山	谷	期 間		
				拡張	後退	全循環
第 6 循環	昭和 40 年 10 月	昭和 45 年 7 月	昭和 46 年 12 月	57 カ月	17 カ月	74 カ月
第 7 循環	46 年 12 月	48 年 11 月	50 年 3 月	23 カ月	16 カ月	39 カ月
第 8 循環	50 年 3 月	52 年 1 月	52 年 10 月	22 カ月	9 カ月	31 カ月
第 9 循環	52 年 10 月	55 年 2 月	58 年 2 月	28 カ月	36 カ月	64 カ月
第 10 循環	58 年 2 月	60 年 6 月	61 年 11 月	28 カ月	17 カ月	45 カ月
第 11 循環	61 年 11 月	平成 3 年 2 月	平成 5 年 10 月	51 カ月	32 カ月	83 カ月
第 12 循環	平成 5 年 10 月	9 年 5 月	11 年 1 月	43 カ月	20 カ月	63 カ月
第 13 循環	11 年 1 月	(12 年 10 月)	(14 年 1 月)	(21 カ月)	(15 カ月)	(36 カ月)

(注) ()は暫定の山谷

※ HD I (ヒストリカル ディフュージョン・インデックス)は 4、5P 参照

4 石川県一致指数の推移



(注) 影の部分は景気後退期を示す。

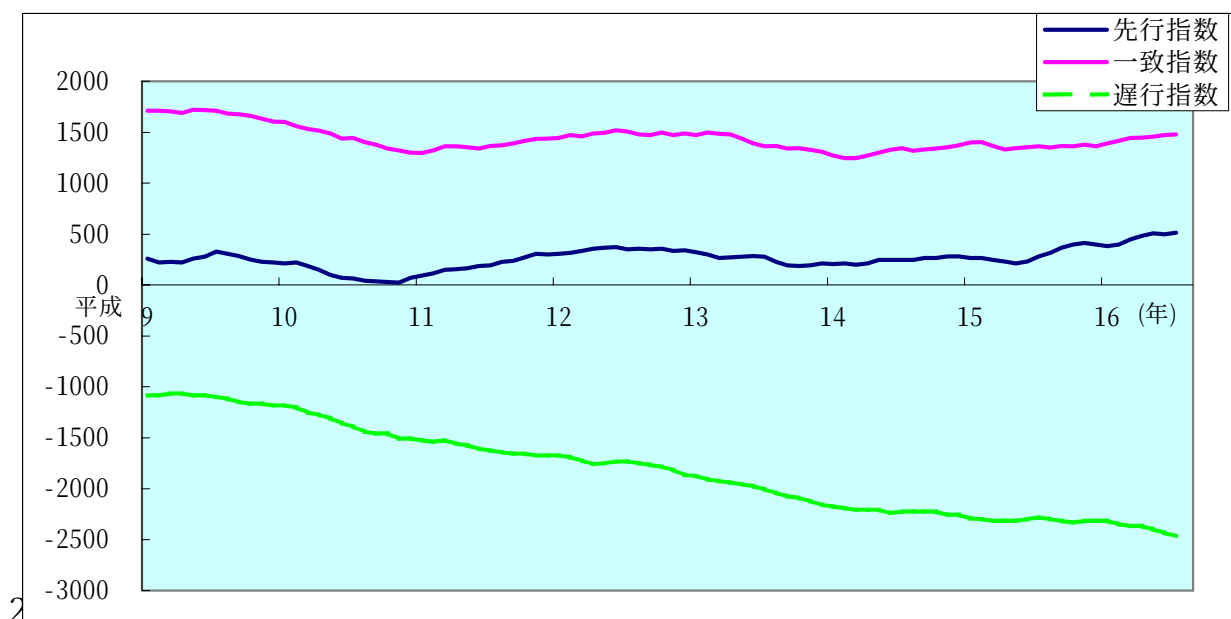
V 累積景気動向指数(累積DI)

1 累積景気動向指数

累積DIは、景気動向指数の月々の値をある基準年月＝0(石川県は昭和45年1月)として
 $(\text{累積DI})_t = (\text{累積DI})_{t-1} + (\text{DI}_{t-50})$ により月々累積して求めます。(t=月)

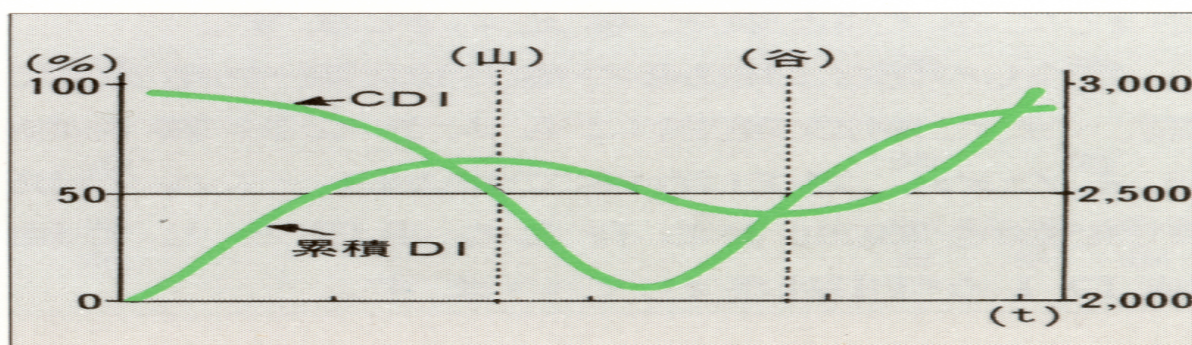
例えば、平成16年7月末の累積DI(一致指数)は、

$$\begin{array}{rclcl} \text{7月末累積DI} & & \text{6月末累積DI} & & \text{7月一致指数(3P表-1)} \\ 1,477.8 & = & 1,472.2 & + & (55.6 - 50) \quad \text{となります。} \end{array}$$



CDIと累積DIは下図に示すように、CDIの場合50%切点が景気の山・谷に対応するのに対し、累積DIでは、その山と谷がそのまま景気の山・谷に対応するなど景気の転換点を視覚的にとらえやすいという利点を持っています。

CDI と 累積 DI



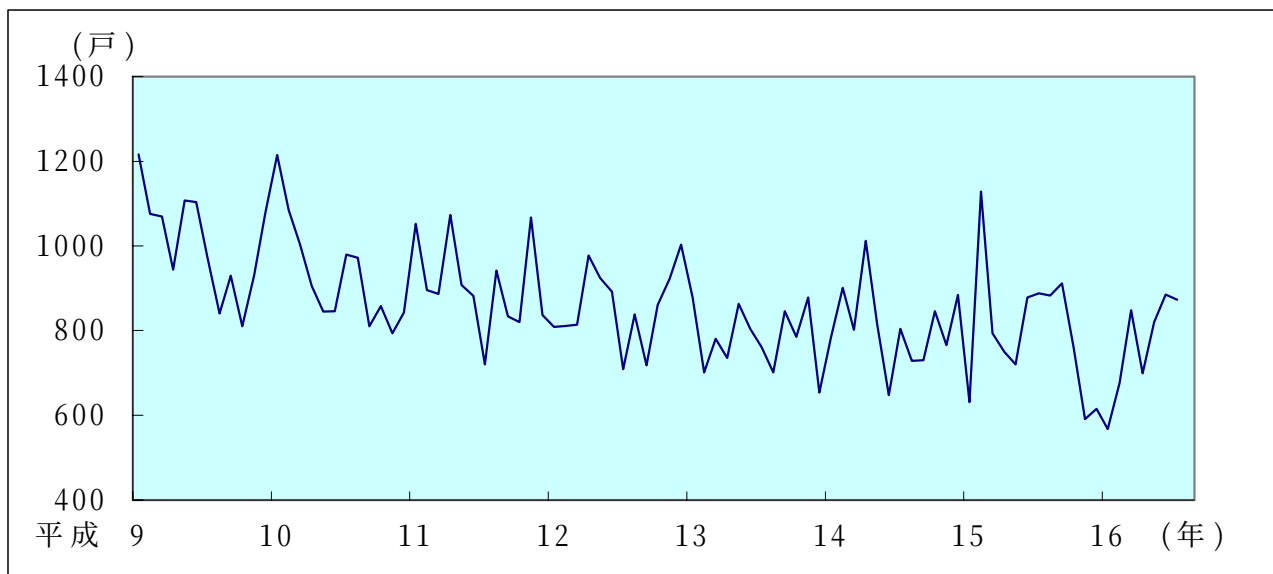
※ CDI：IVの2(4P)のHDIに対し、月々のデータから作成される毎月のDIをCDI(カレントDI)といいます。

資 料 編

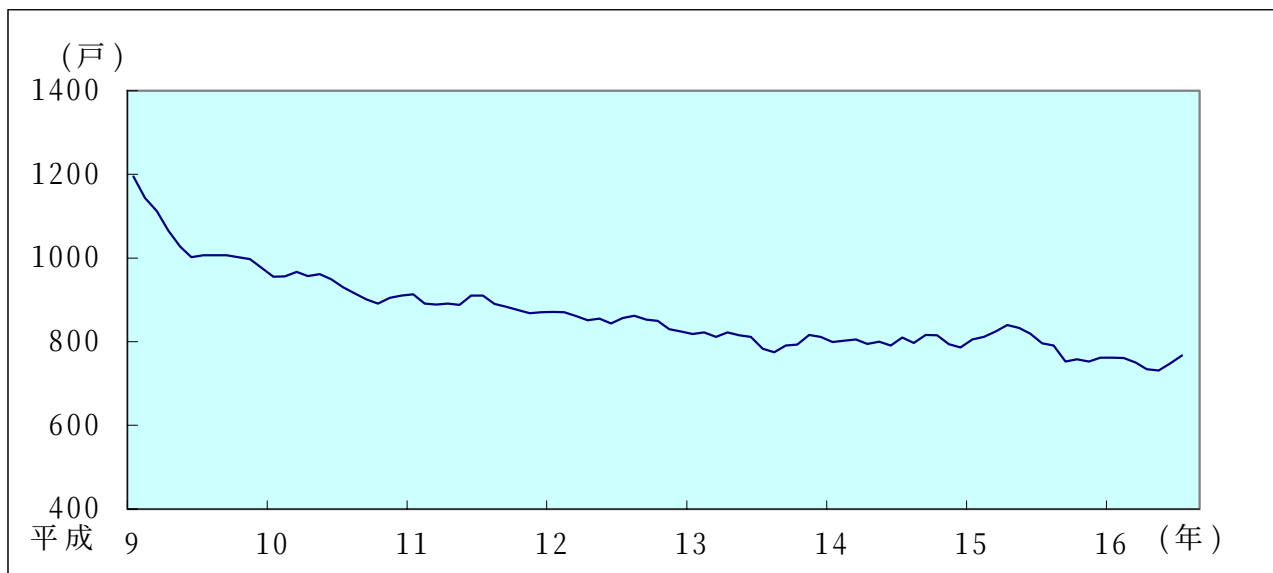
(1) 個別指標グラフ 先行系列

① 新設住宅着工戸数

季節調整値



12 か月移動平均

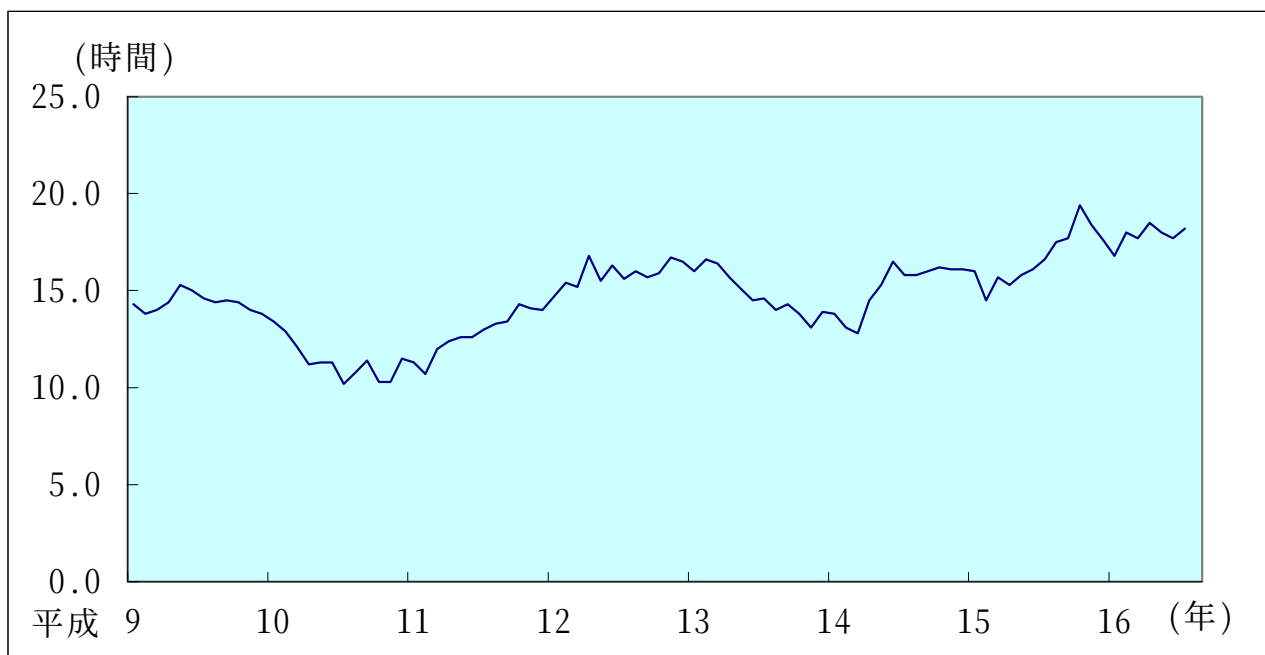


(注) 季節調整値：時系列データ(原数値)から四季の変化や社会慣習などの季節変動要因を除去した数値

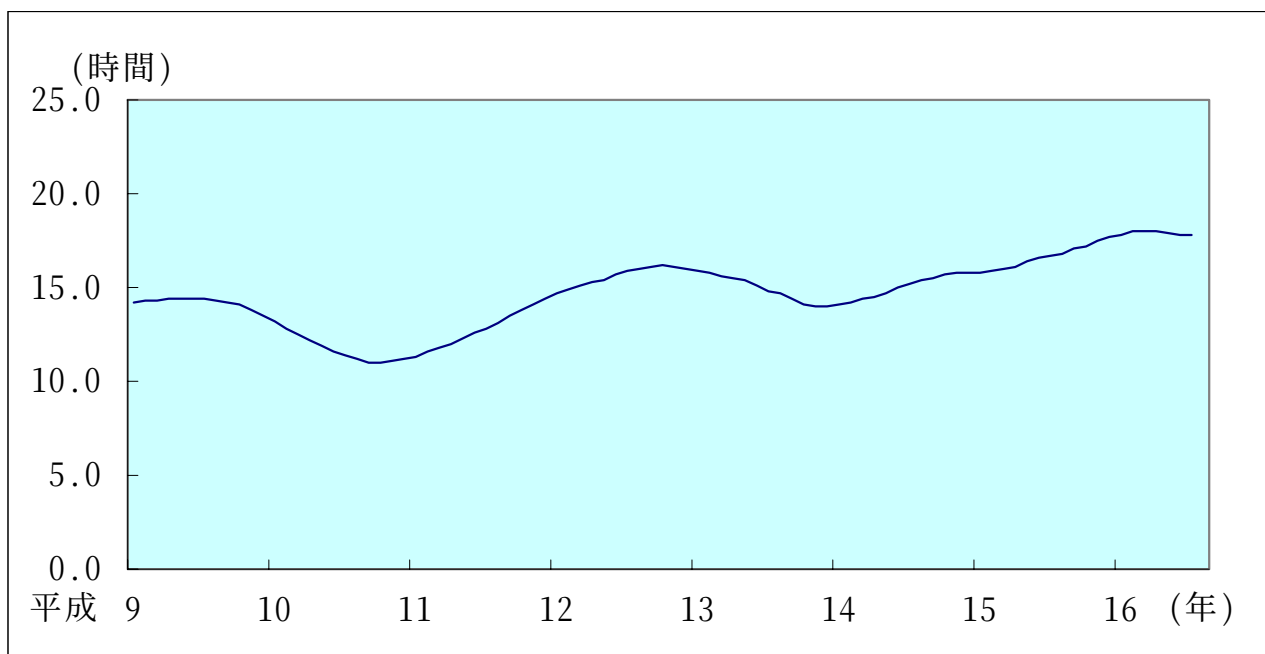
12 か月移動平均：連続する 12 か月のデータを平均して不規則変動や季節変動要因を除去した数値

② 所定外労働時間

季節調整値

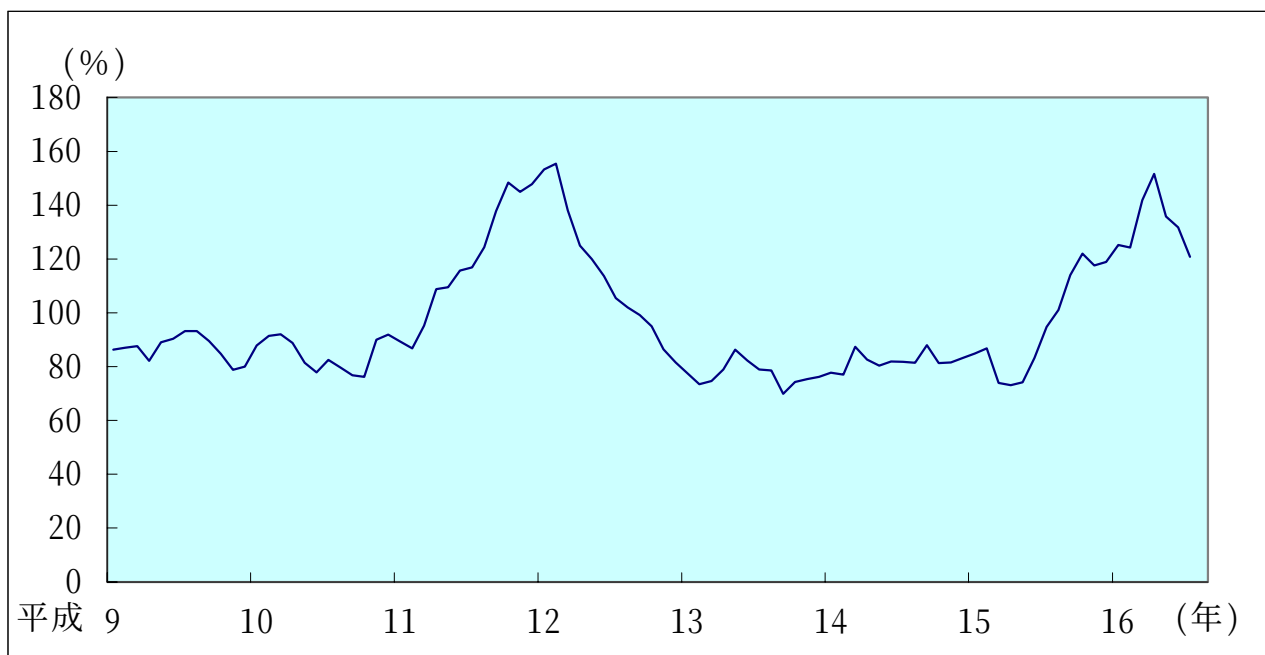


12 か月移動平均

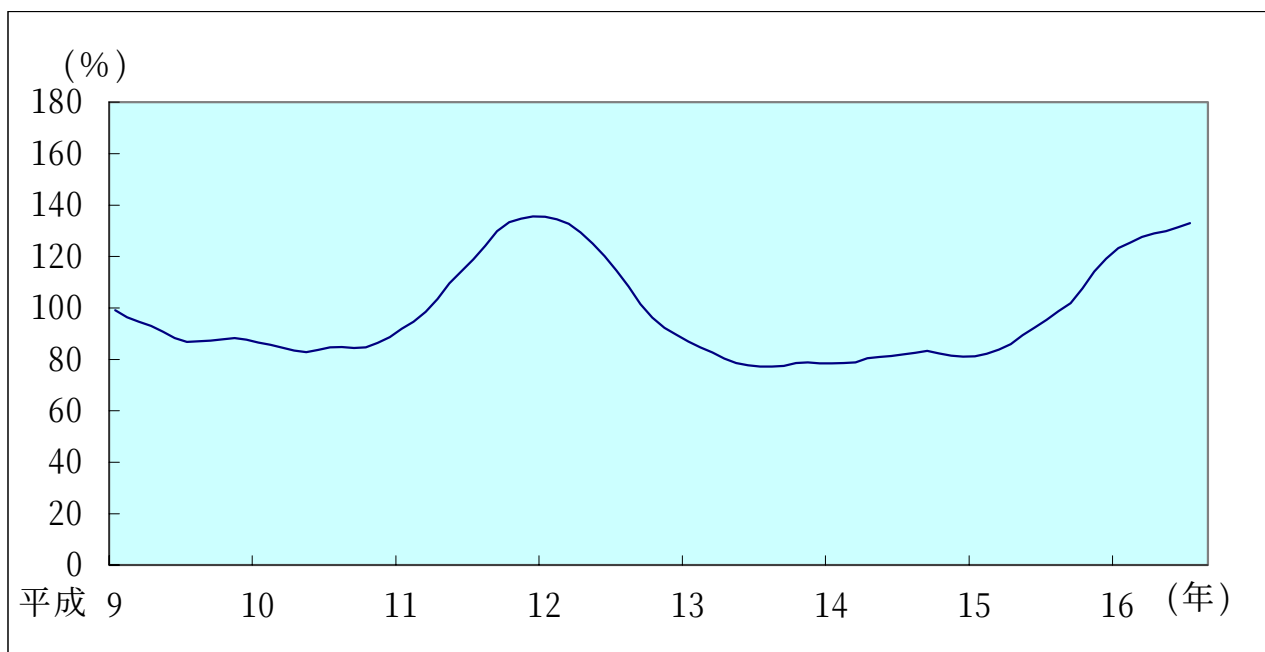


③ 東証株価指数

季節調整値

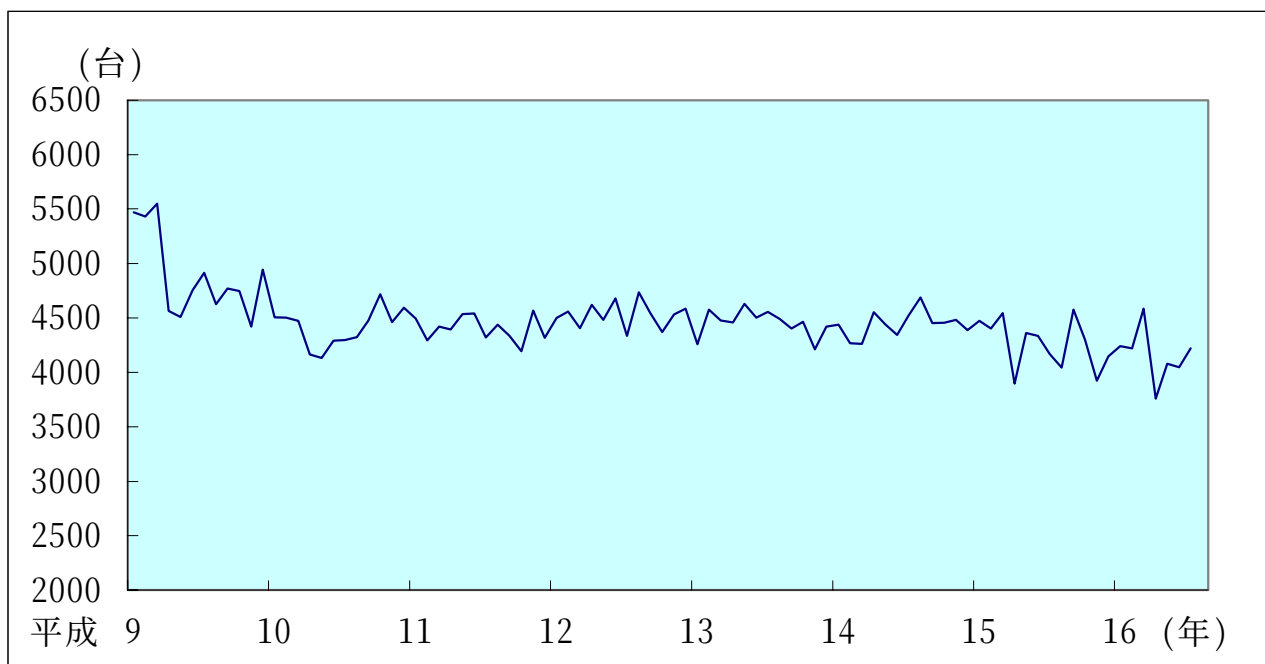


12 か月移動平均

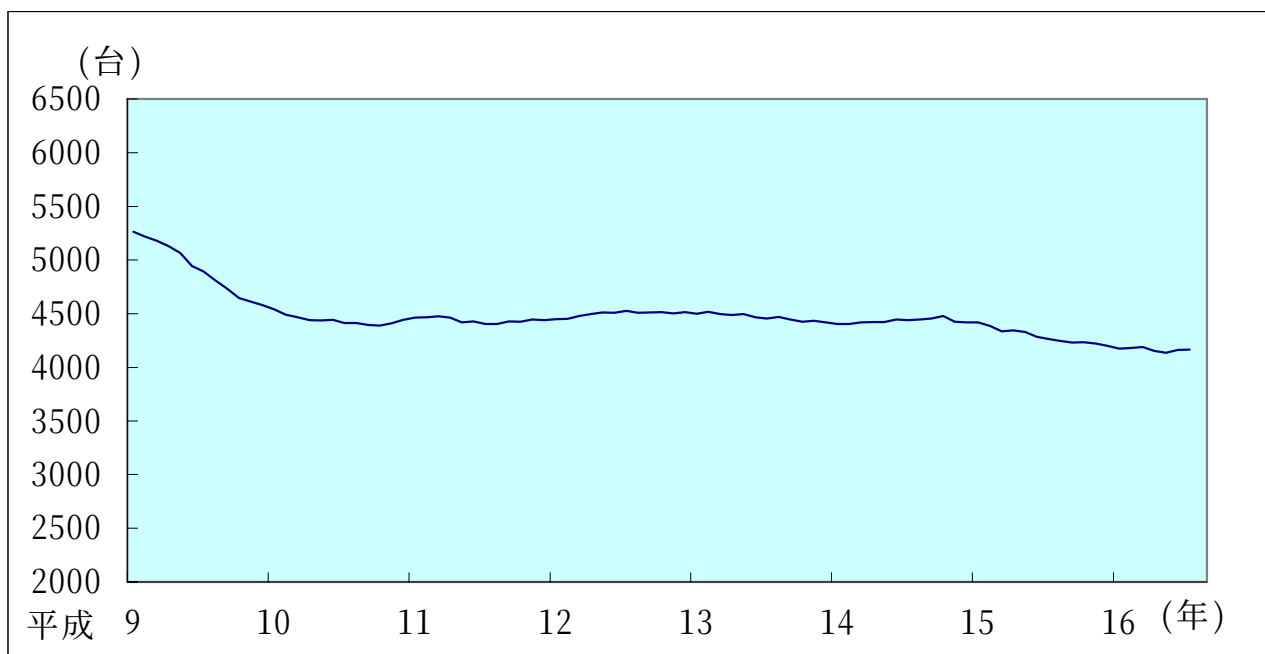


④ 新車新規登録数

季節調整値



12 か月移動平均

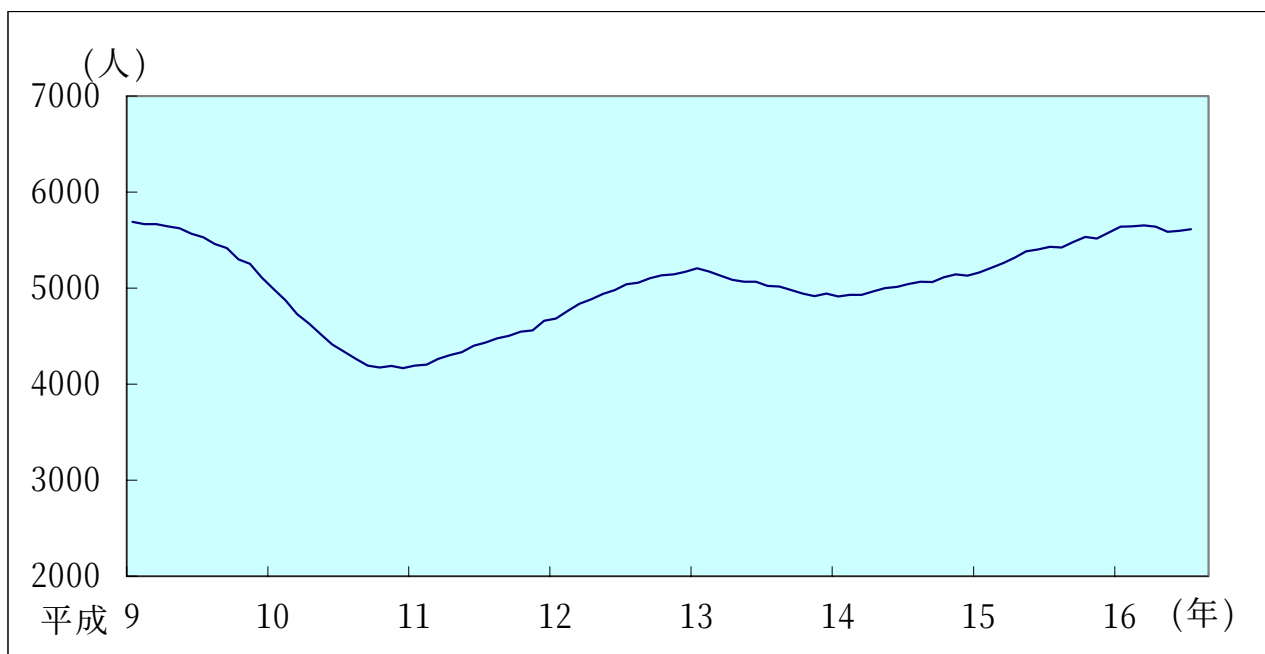


⑤ 新規求人数

季節調整値

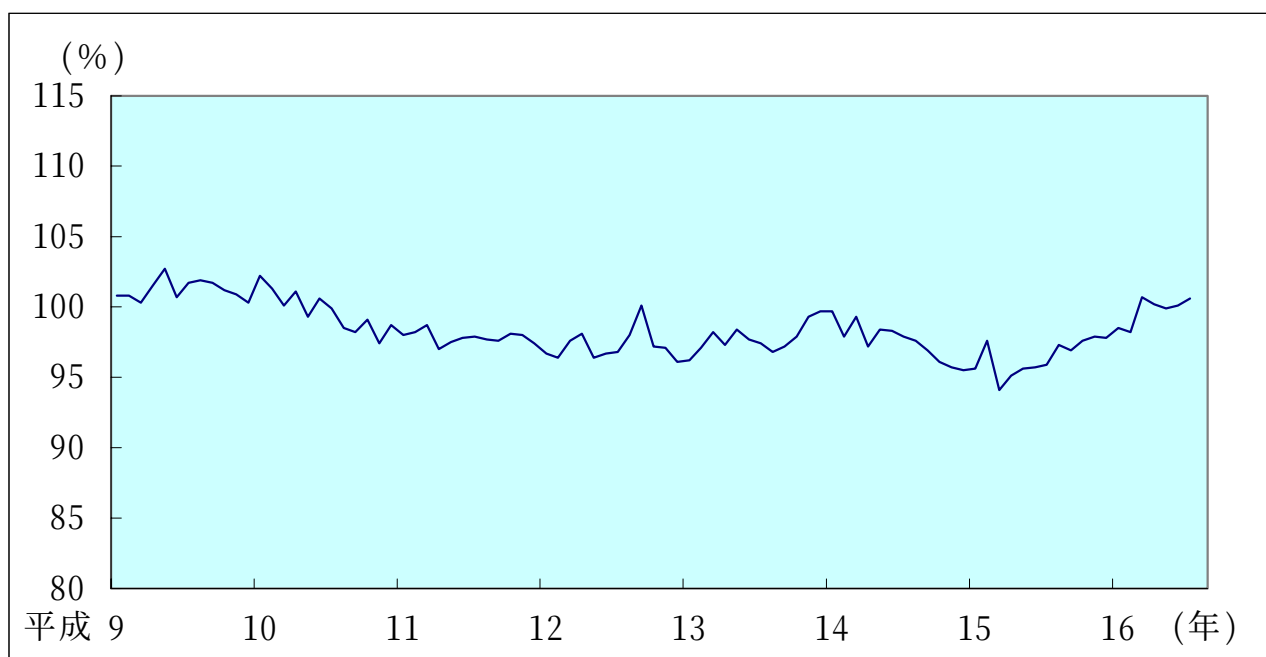


12 か月移動平均

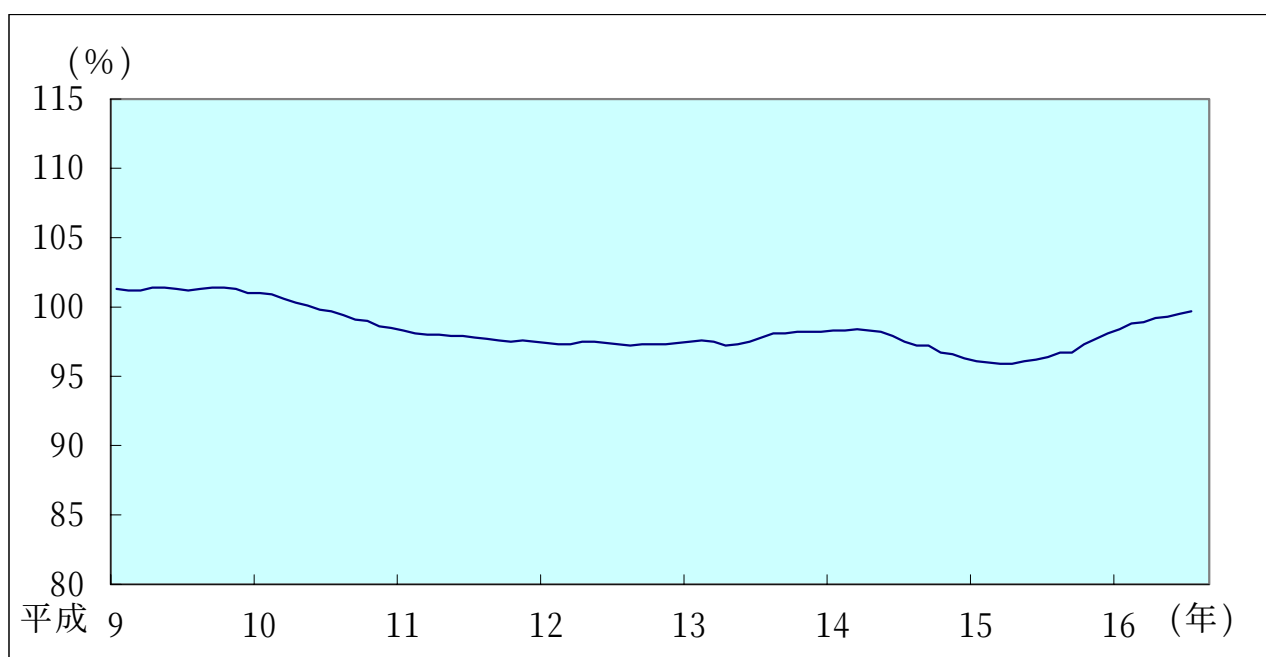


⑥ 銀行貸出残高

季節調整値



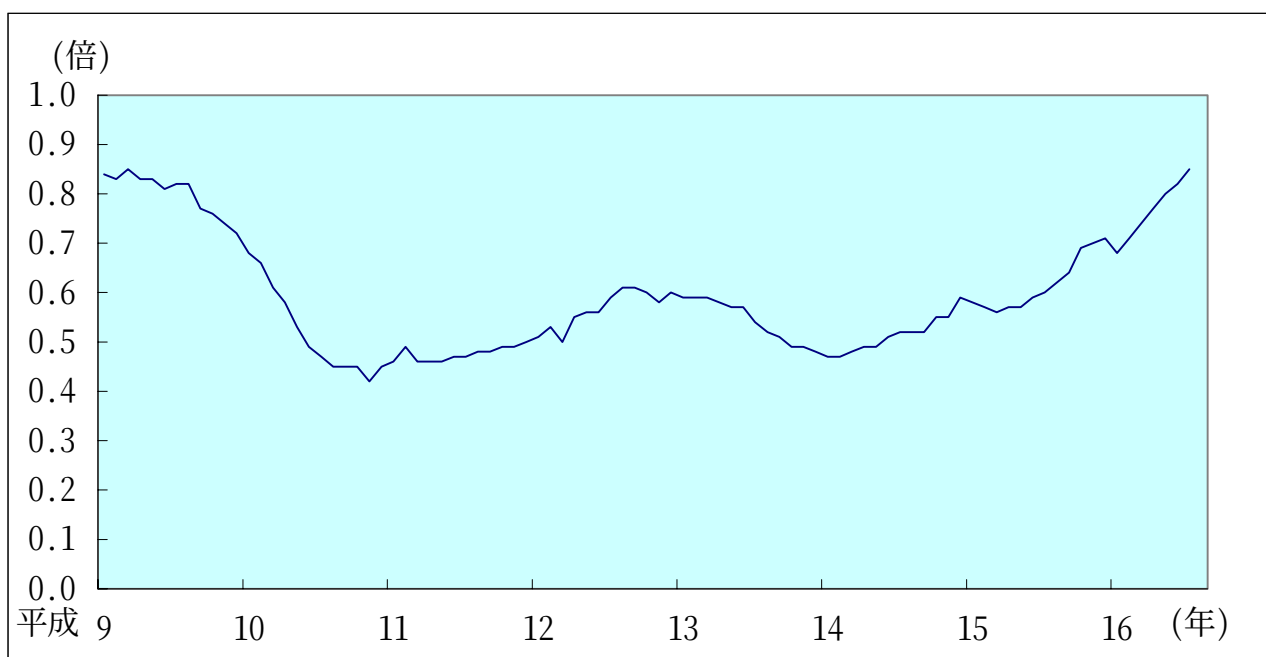
12 か月移動平均



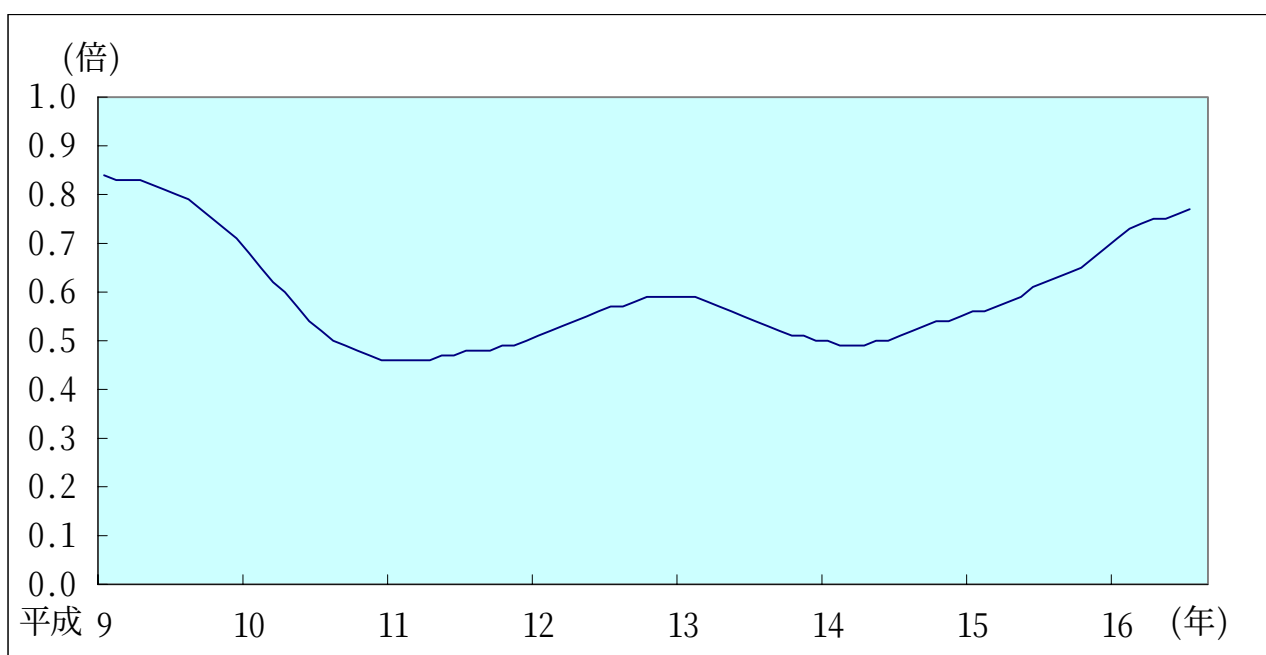
(2) 個別指標グラフ 一致系列

① 有効求人倍率

季節調整値

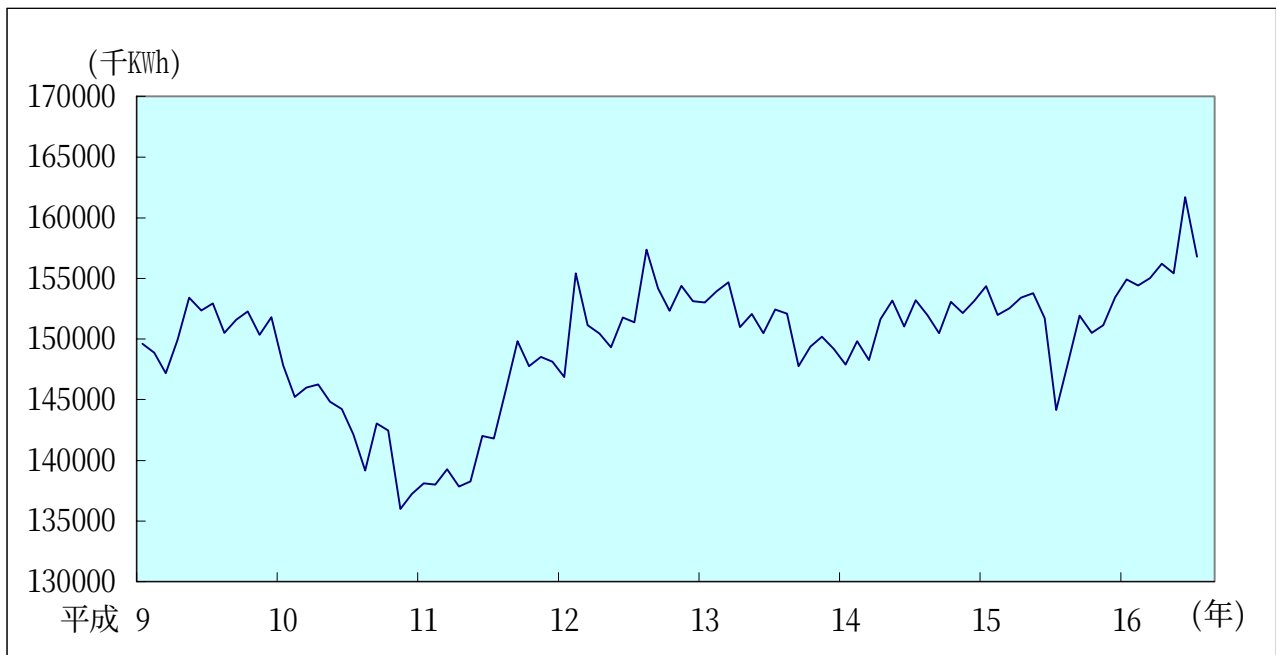


12 か月移動平均

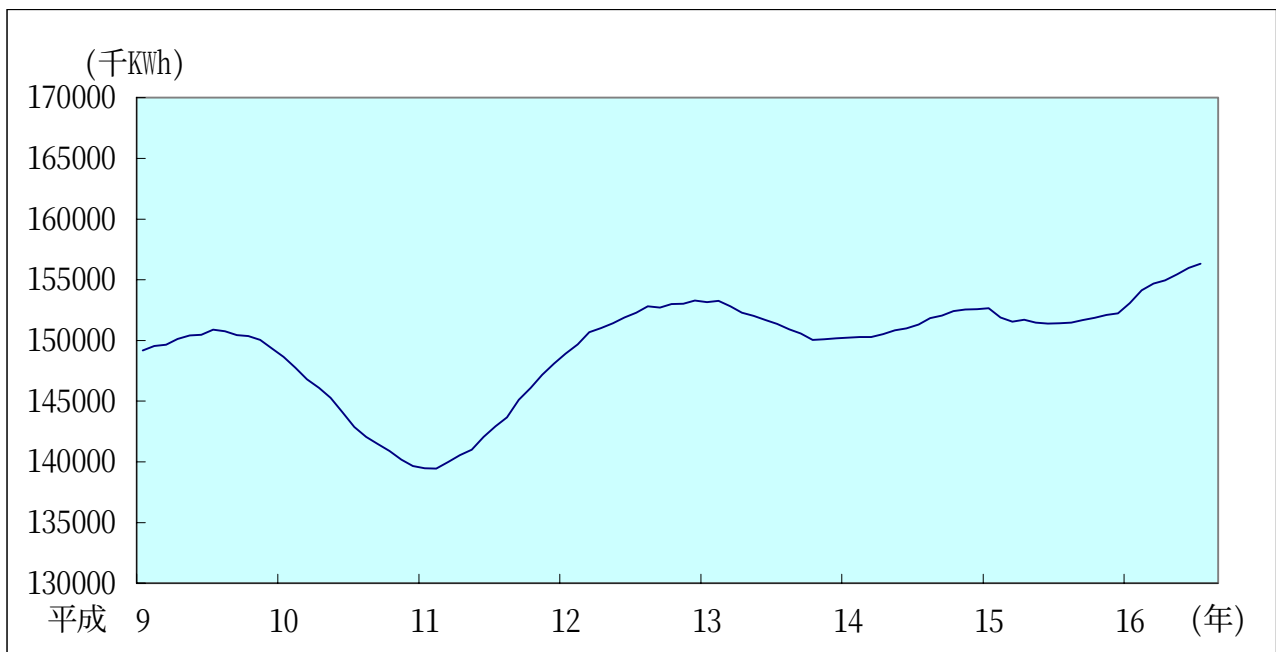


② 大口電力使用量

季節調整値

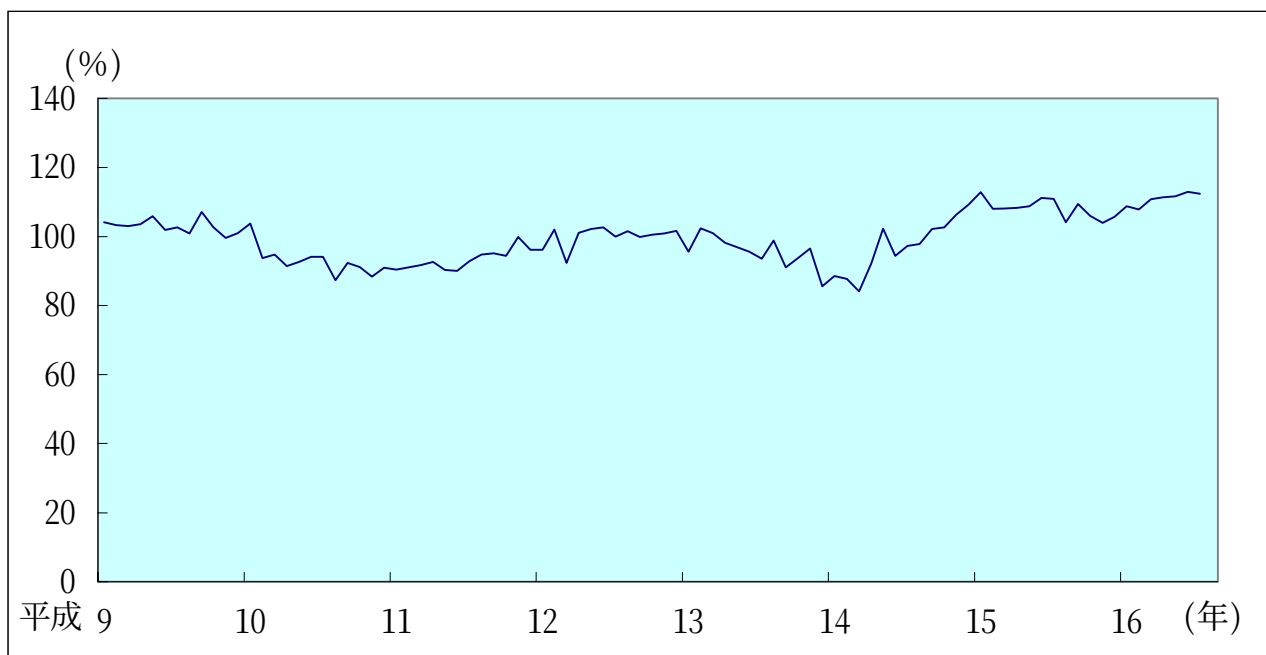


12 か月移動平均

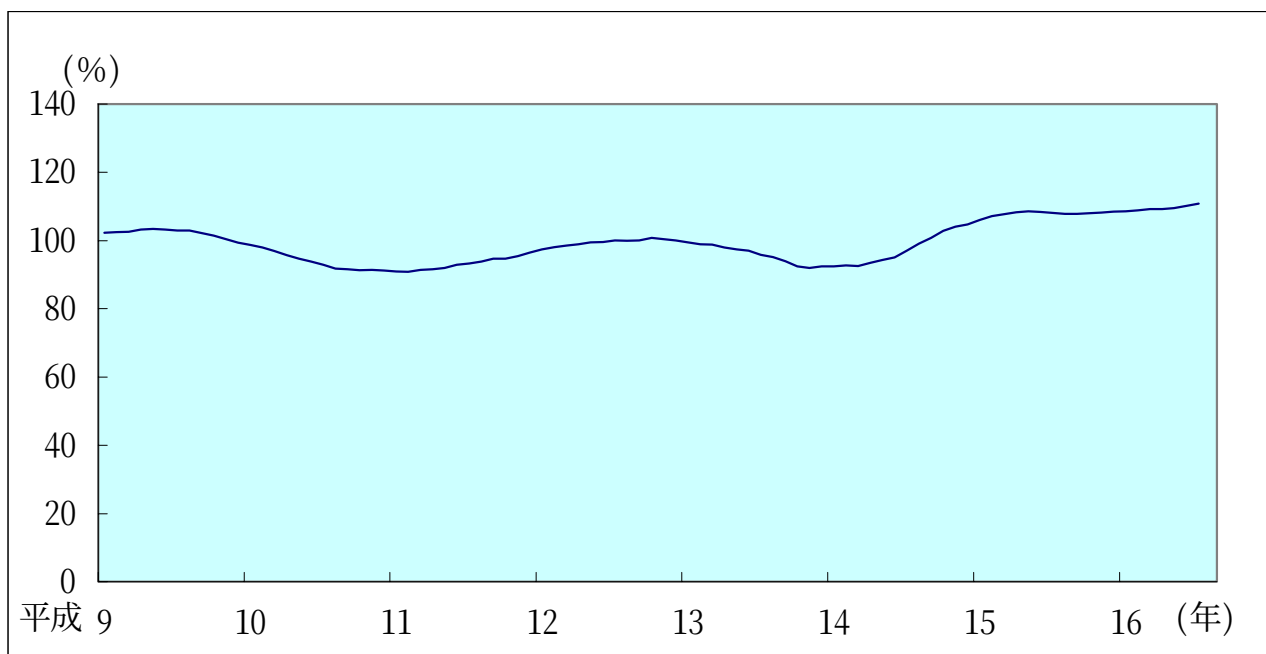


③ 鋁工業生産指数(総合)

季節調整値

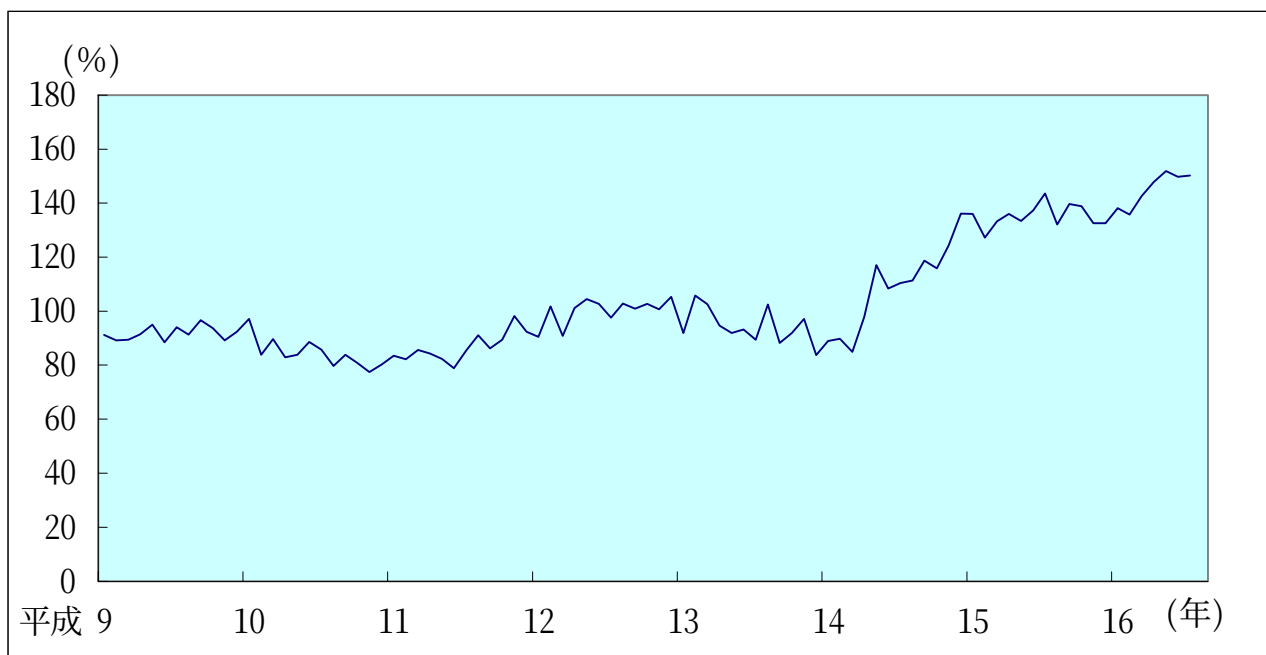


12 か月移動平均

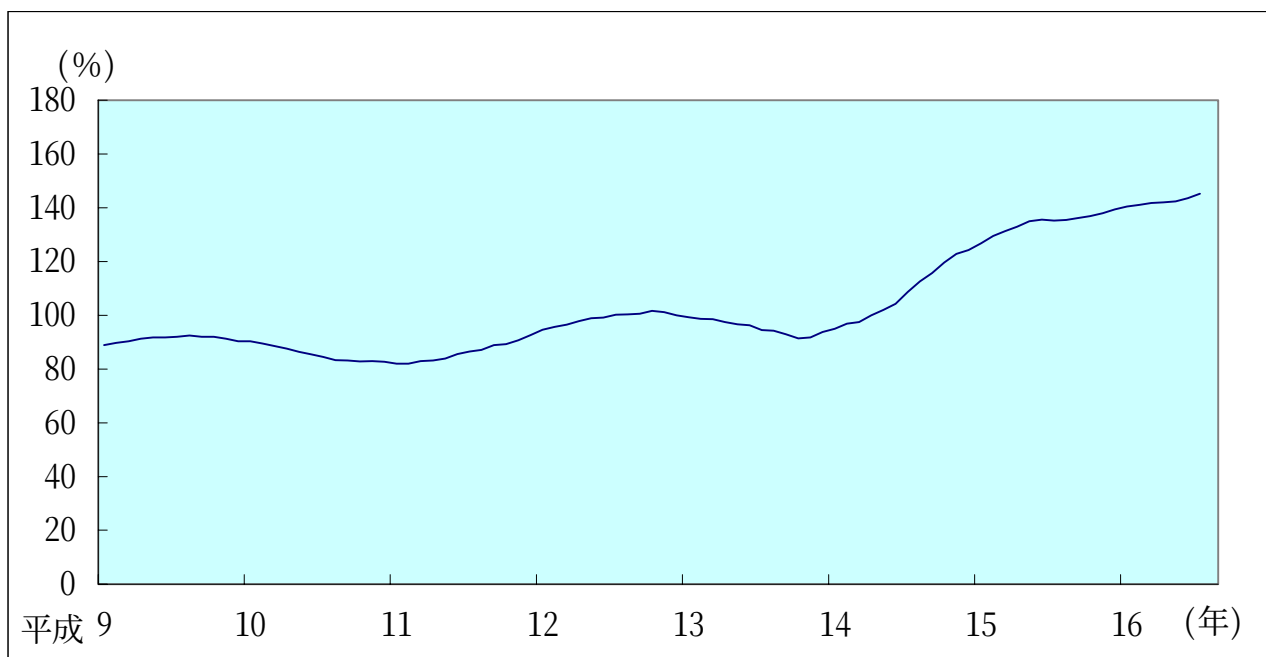


④ 鋁工業生産指数(機械)

季節調整値

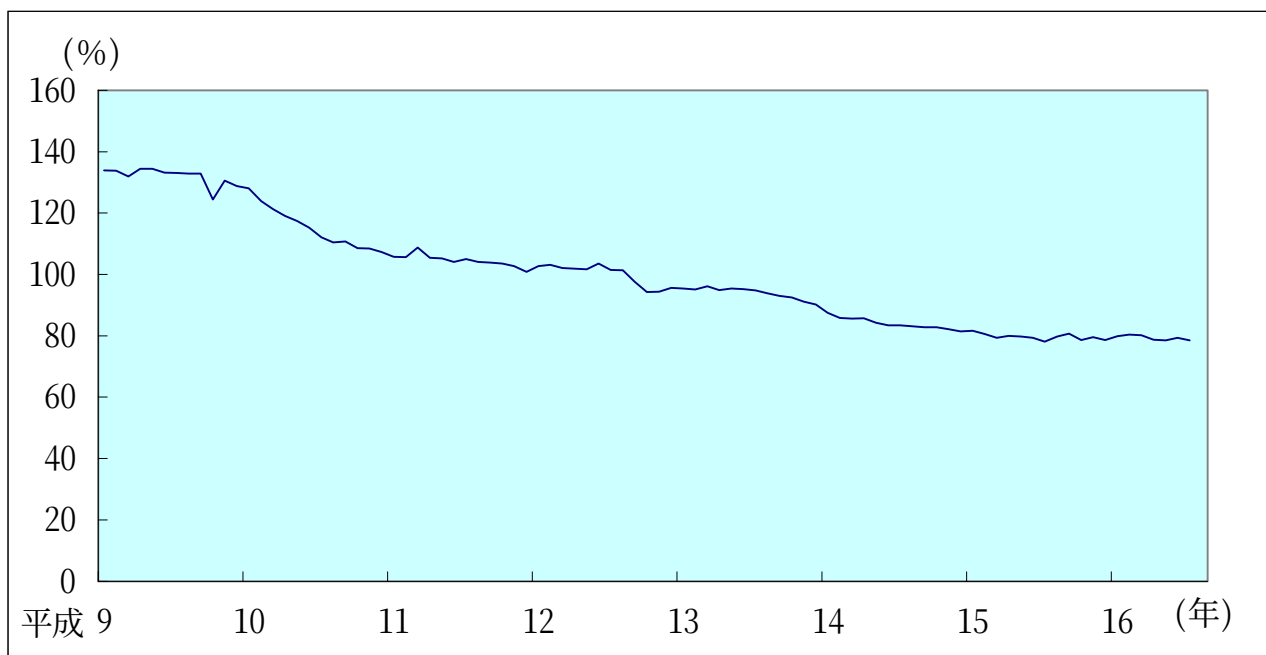


12 か月移動平均

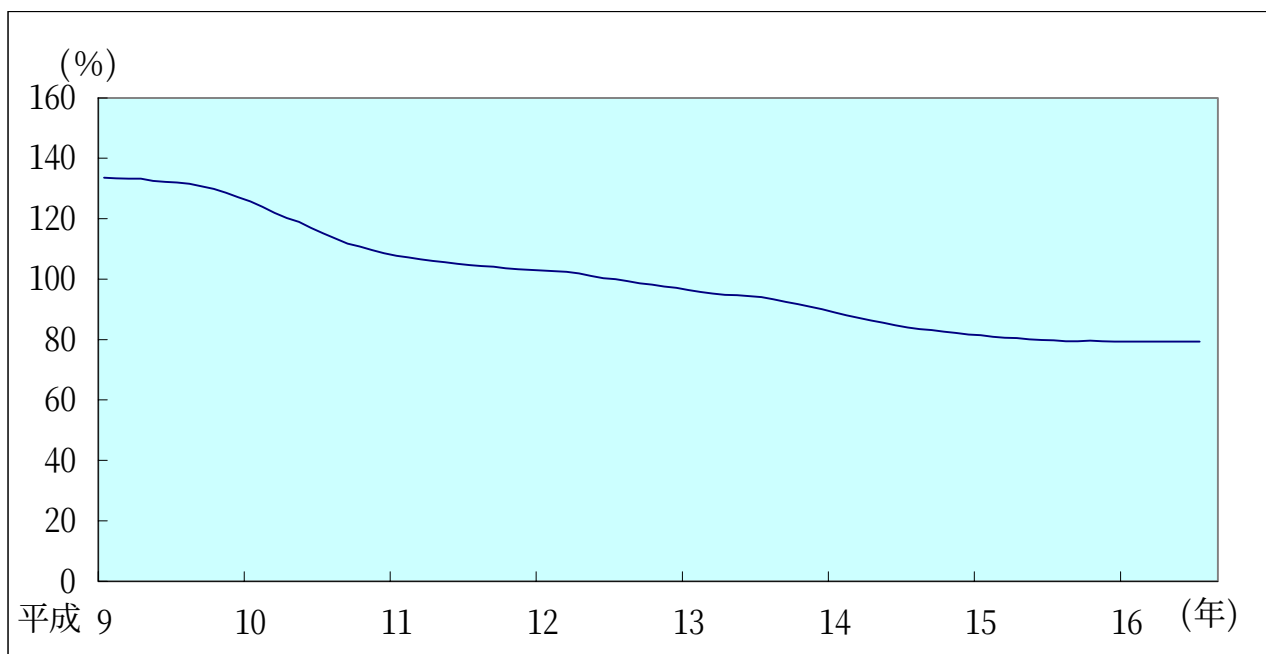


⑤ 鋁工業生産指数(繊維)

季節調整値

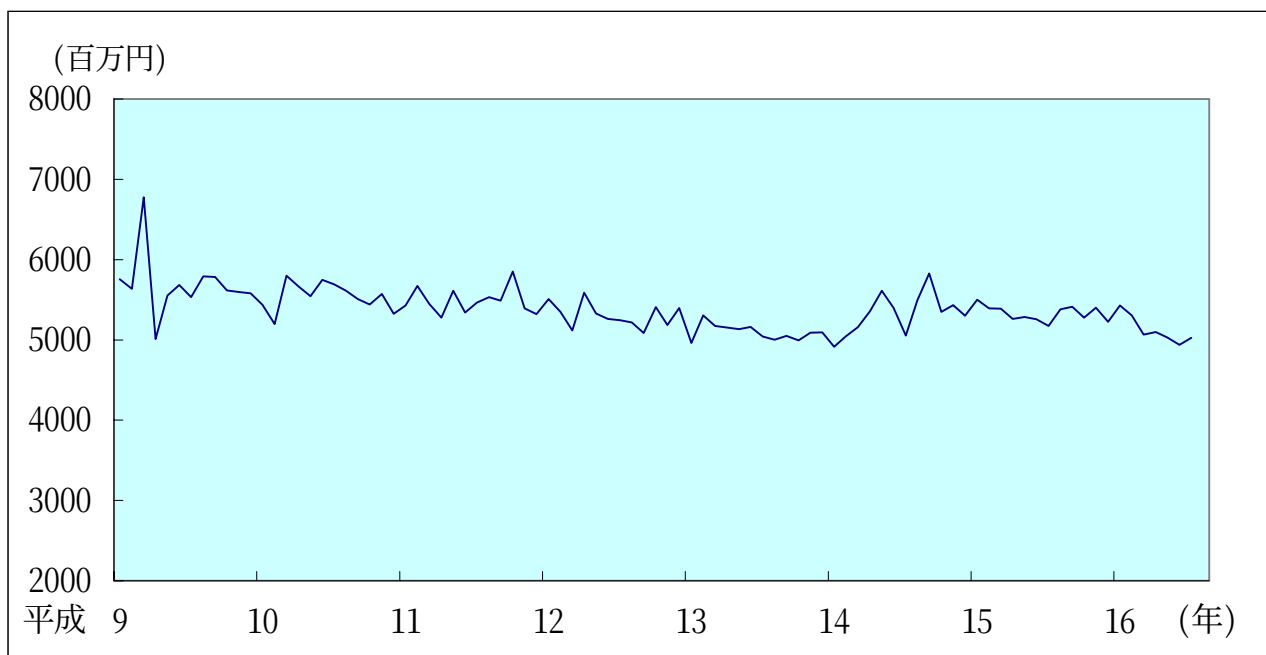


12 か月移動平均

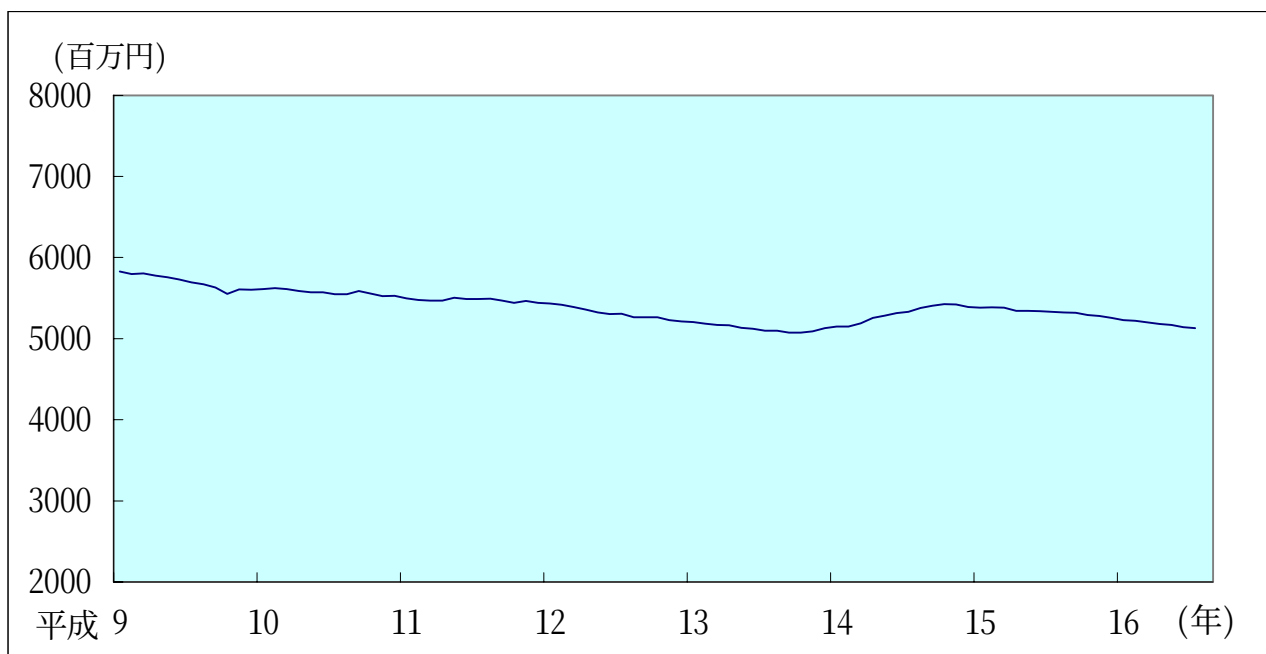


⑥ 百貨店販売額

季節調整値

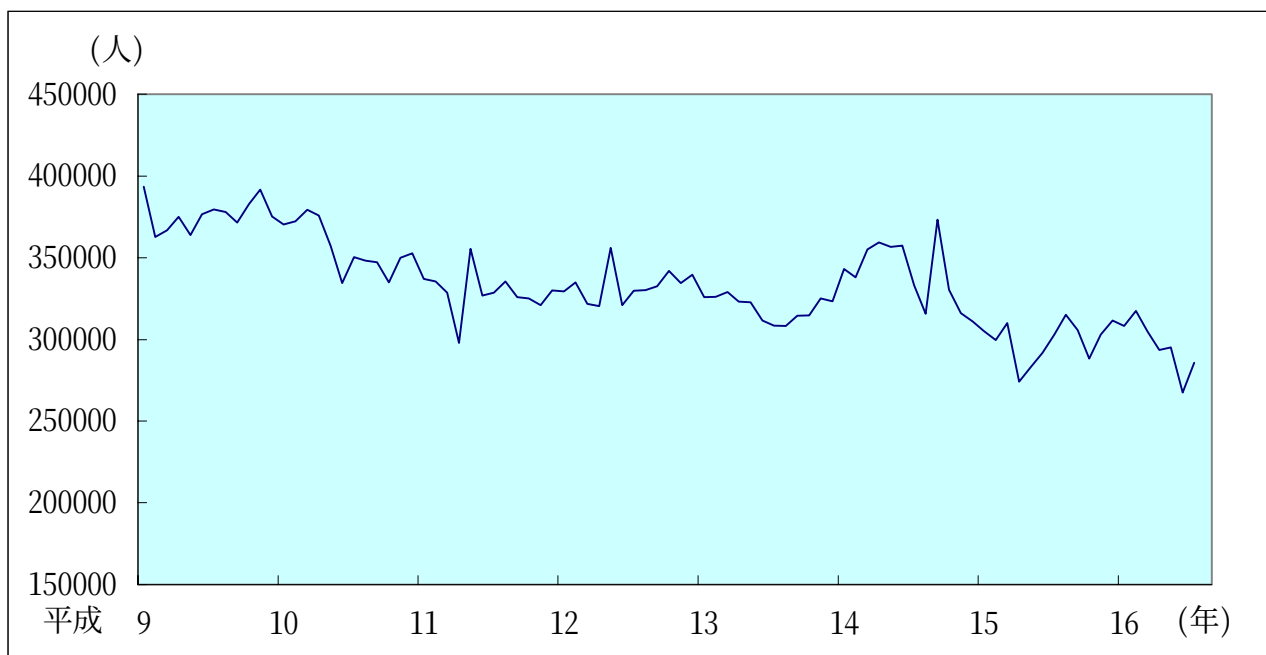


12 か月移動平均

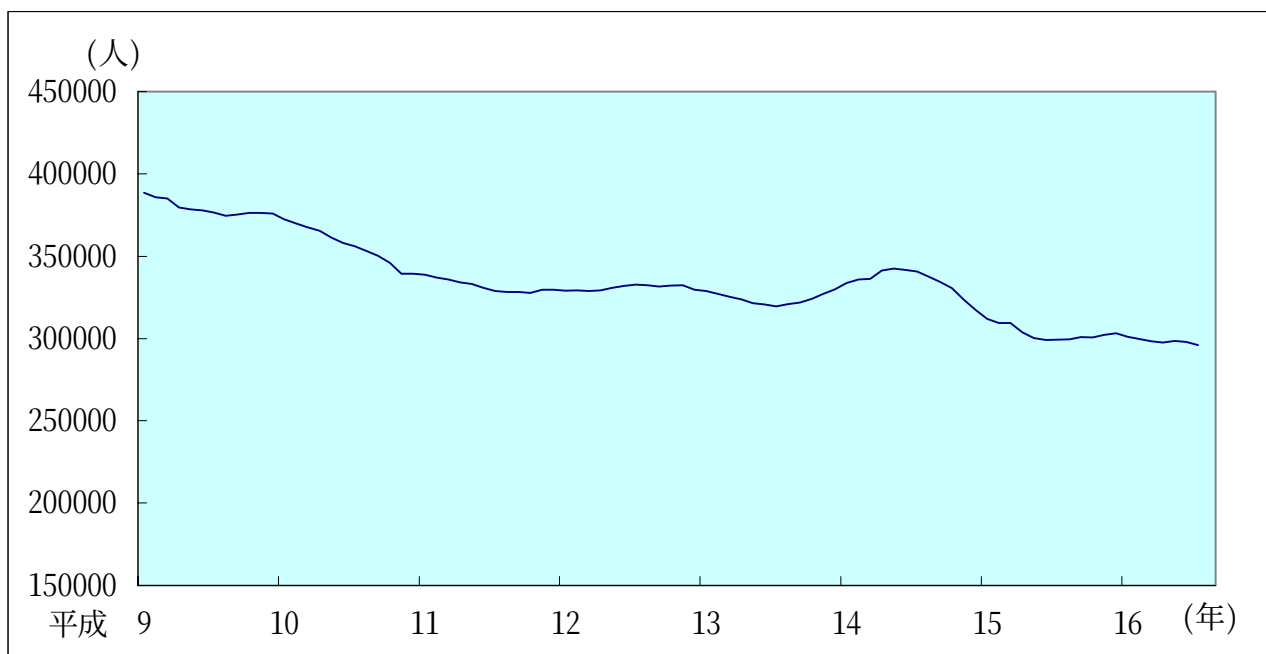


⑦ 温泉旅館宿泊客数

季節調整値

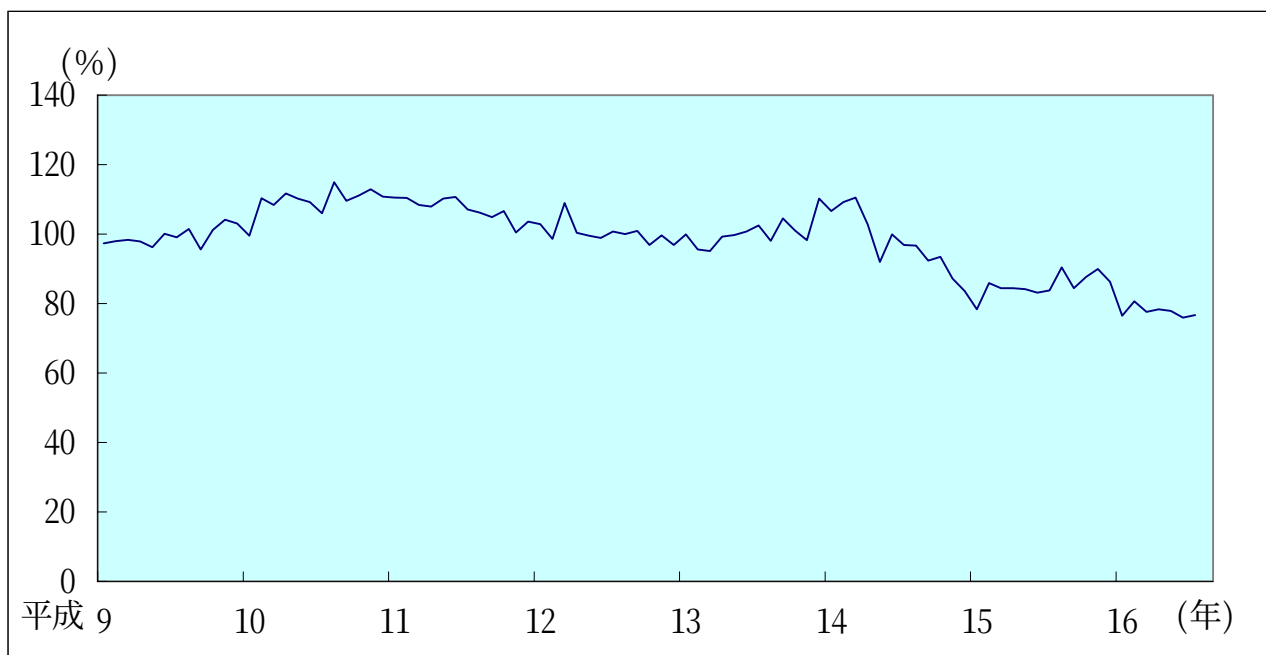


12 か月移動平均

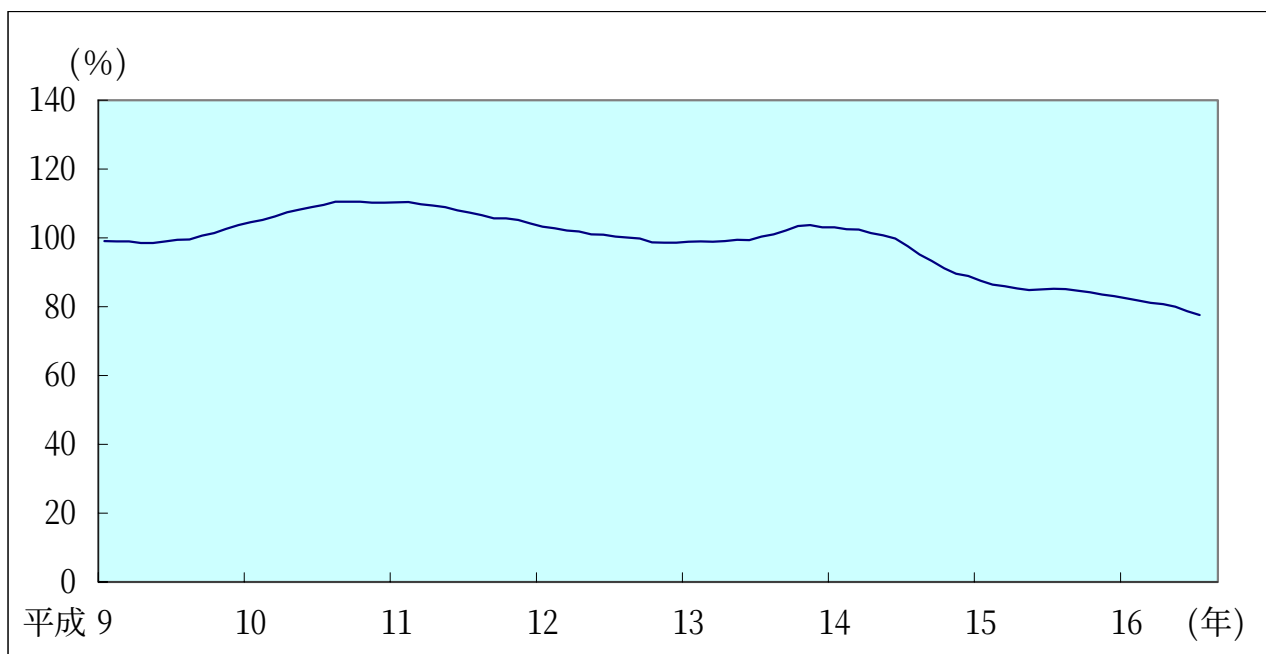


⑧ 単位労働コスト

季節調整値

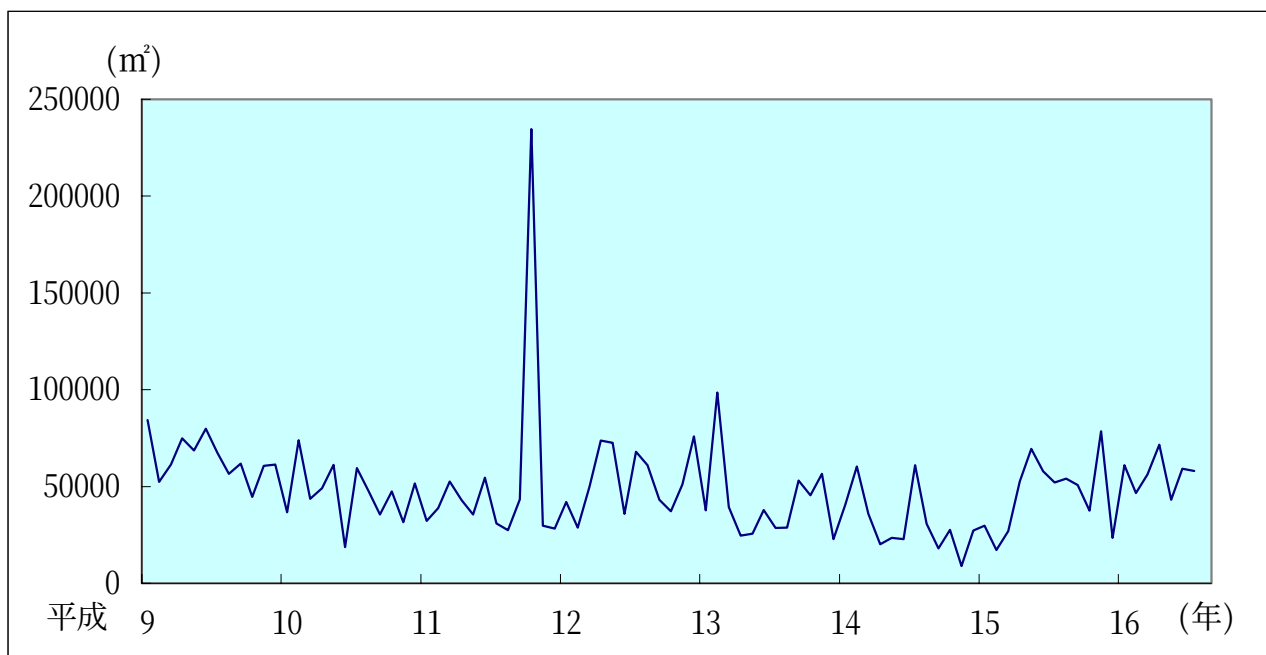


12 か月移動平均

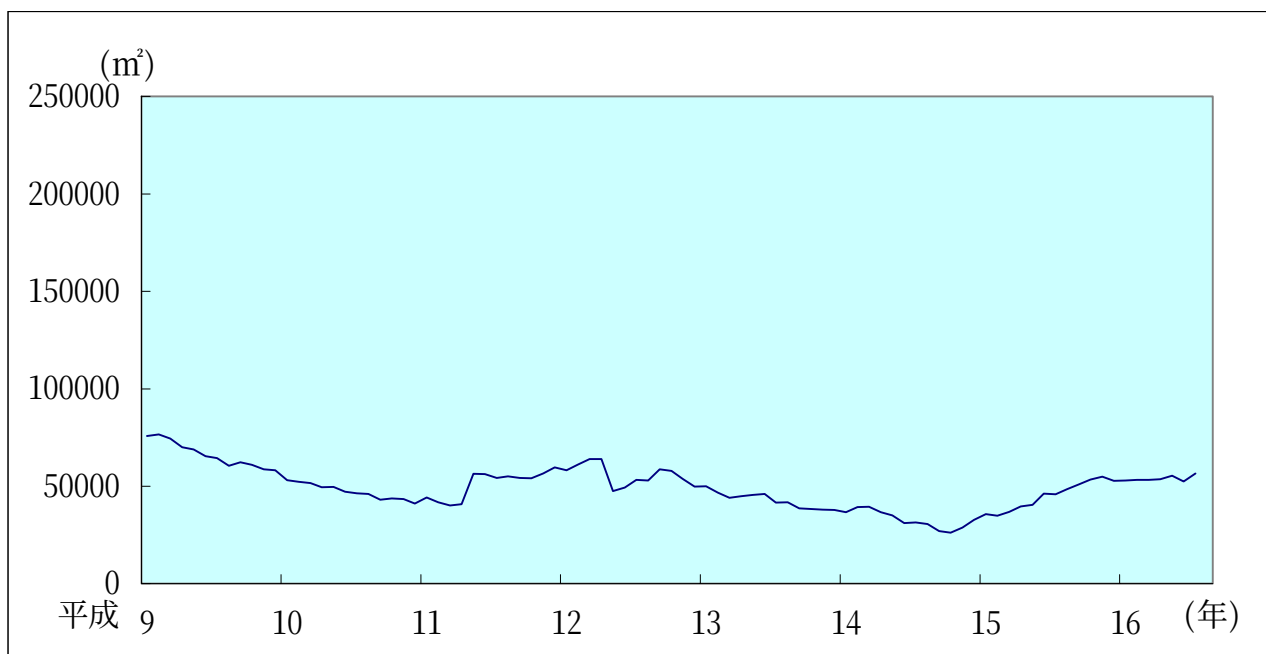


⑨ 建築着工床面積

季節調整値



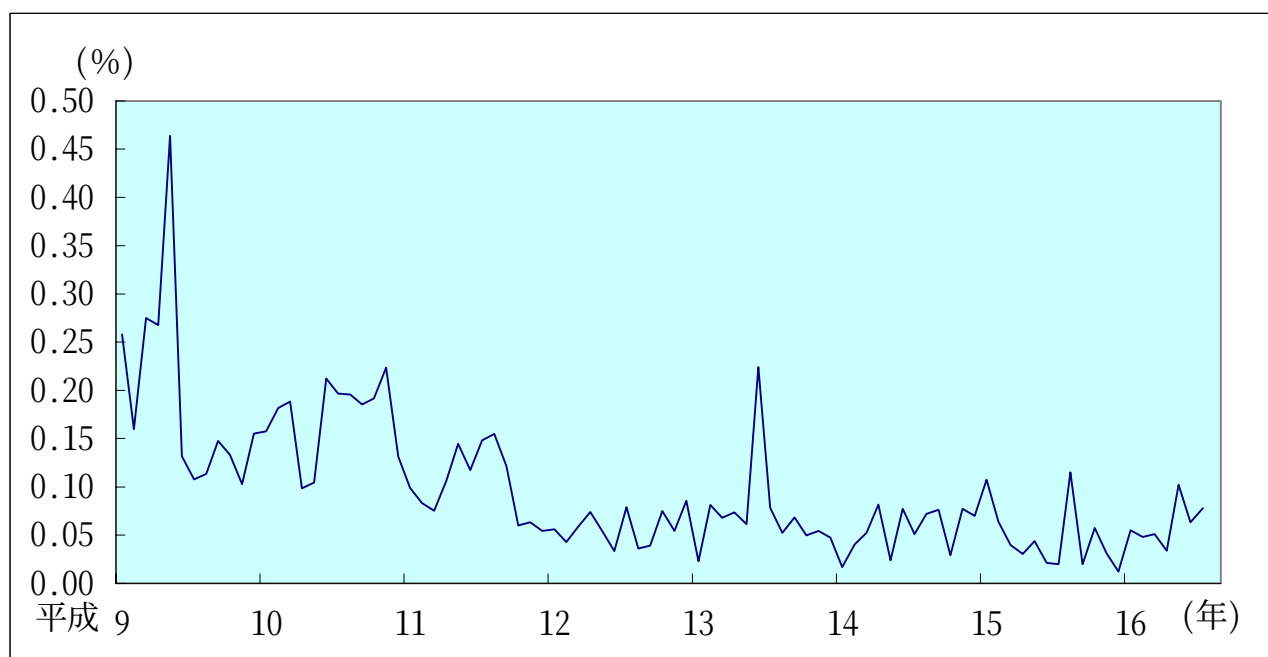
12 か月移動平均



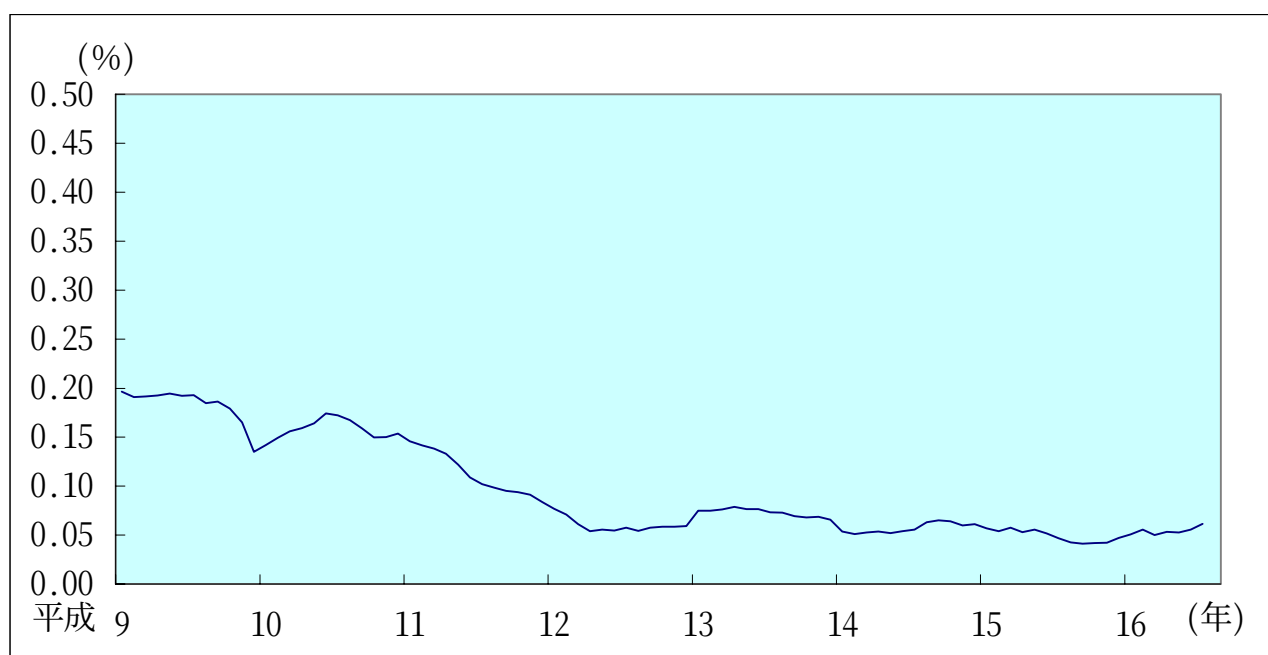
(3) 個別指標グラフ 遅行系列

① 不渡手形発生率

季節調整値

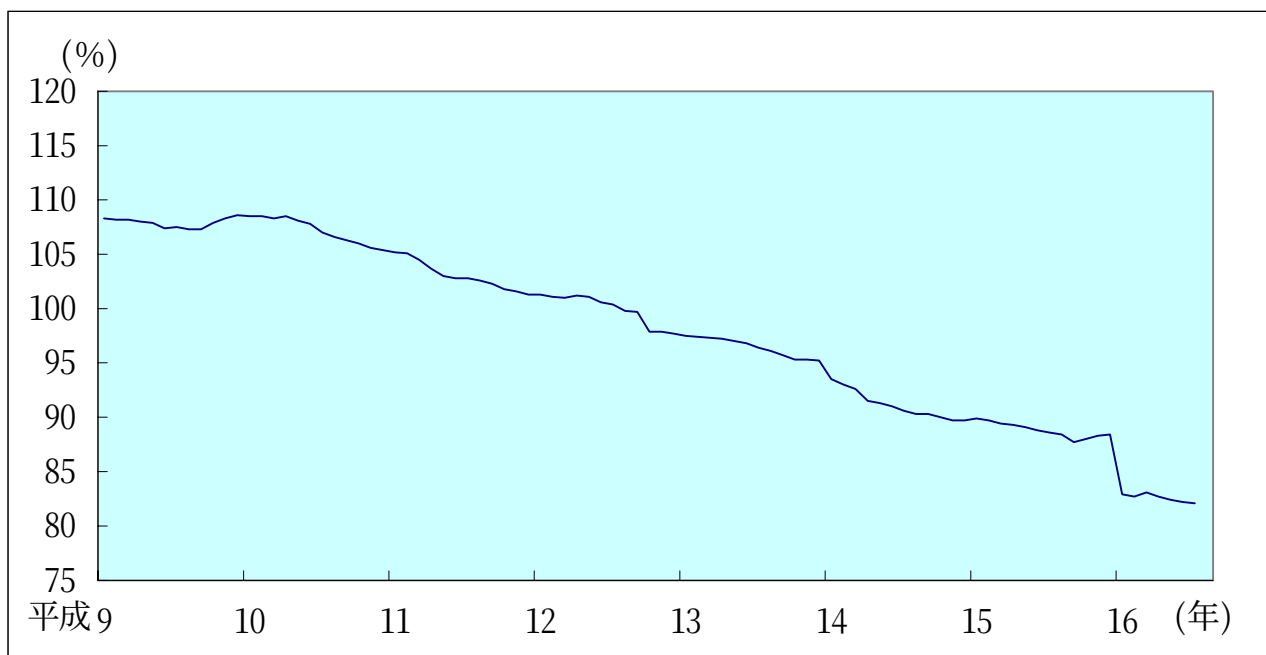


12 か月移動平均

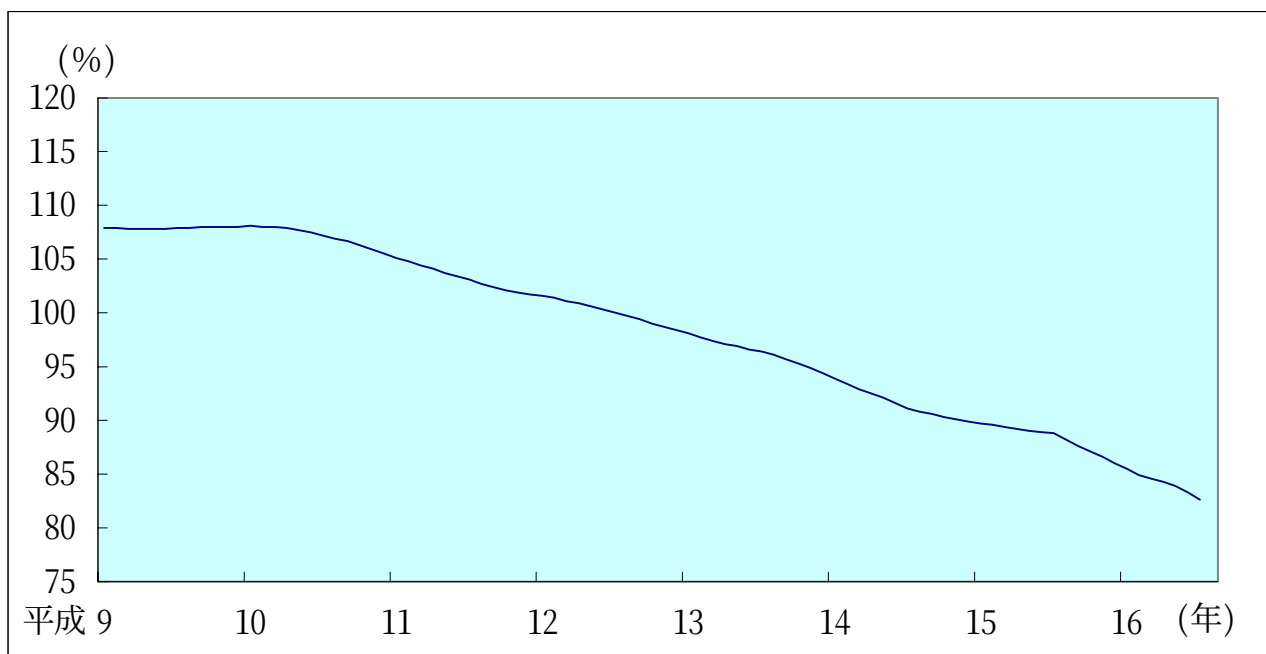


② 雇用指数

季節調整値

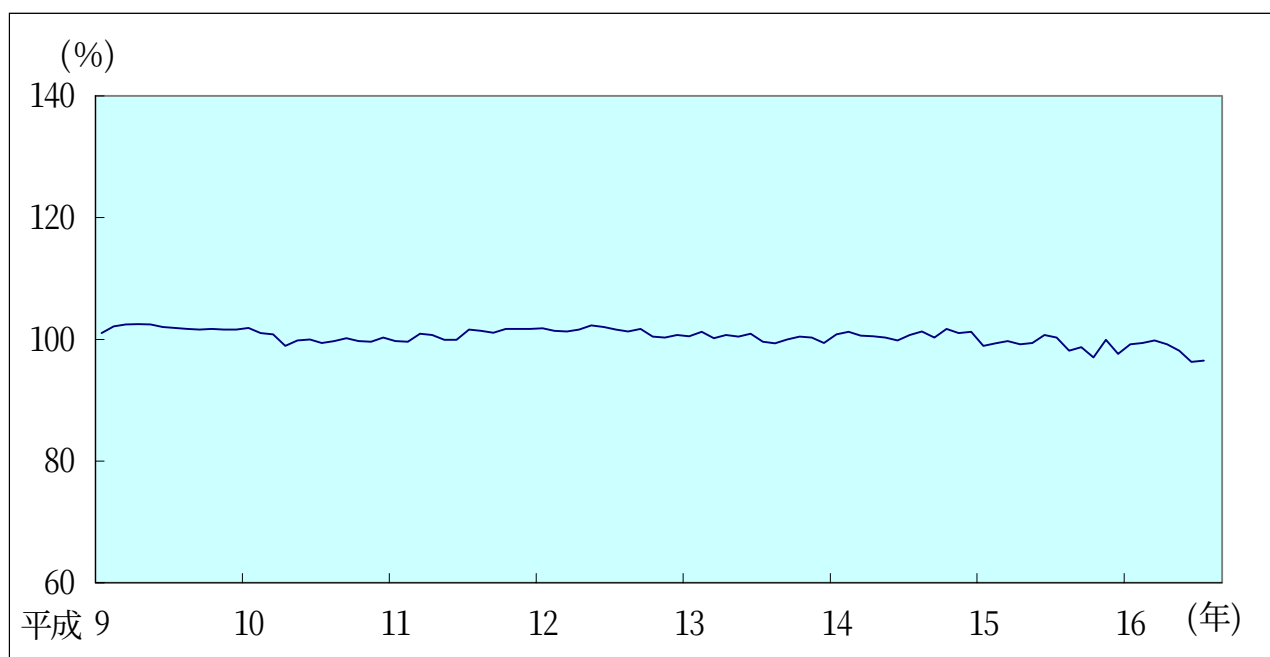


12 か月移動平均

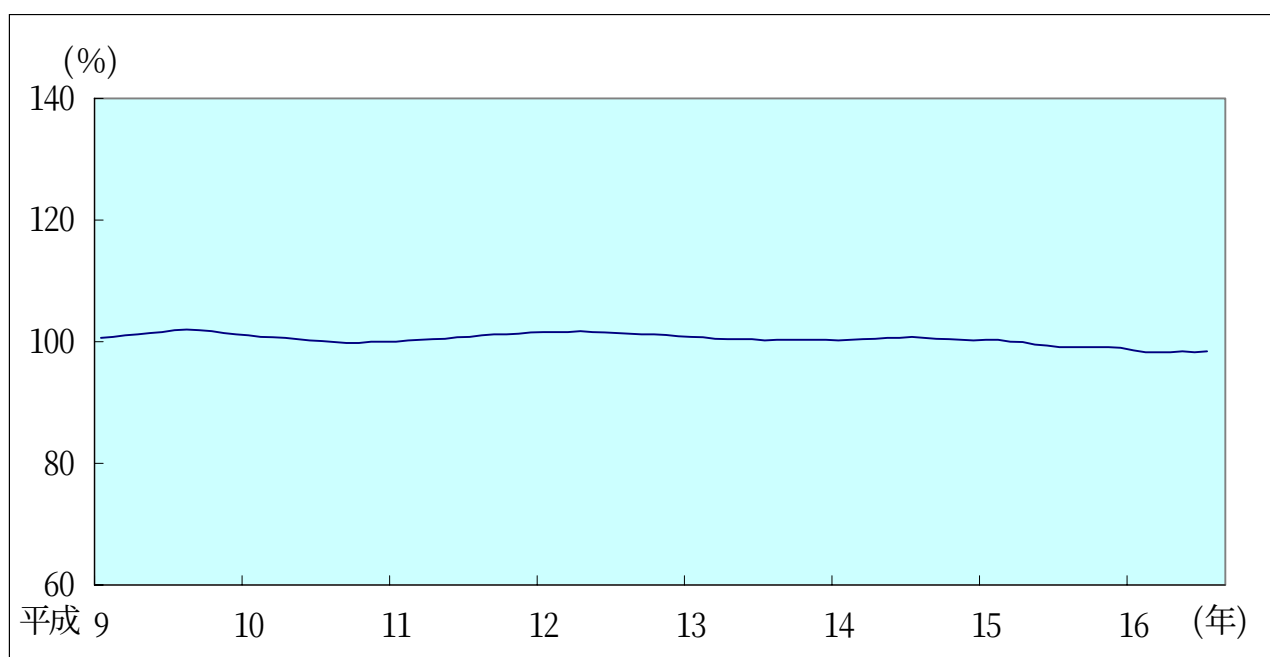


③ 賃金指数

季節調整値

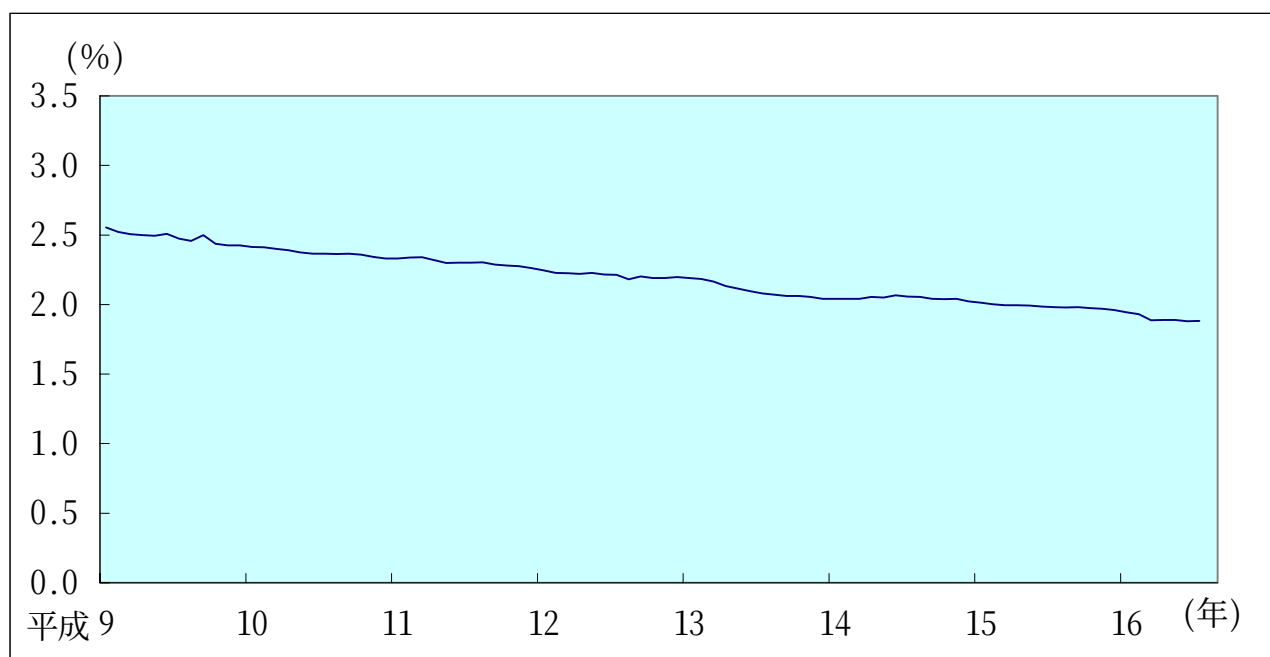


12 か月移動平均

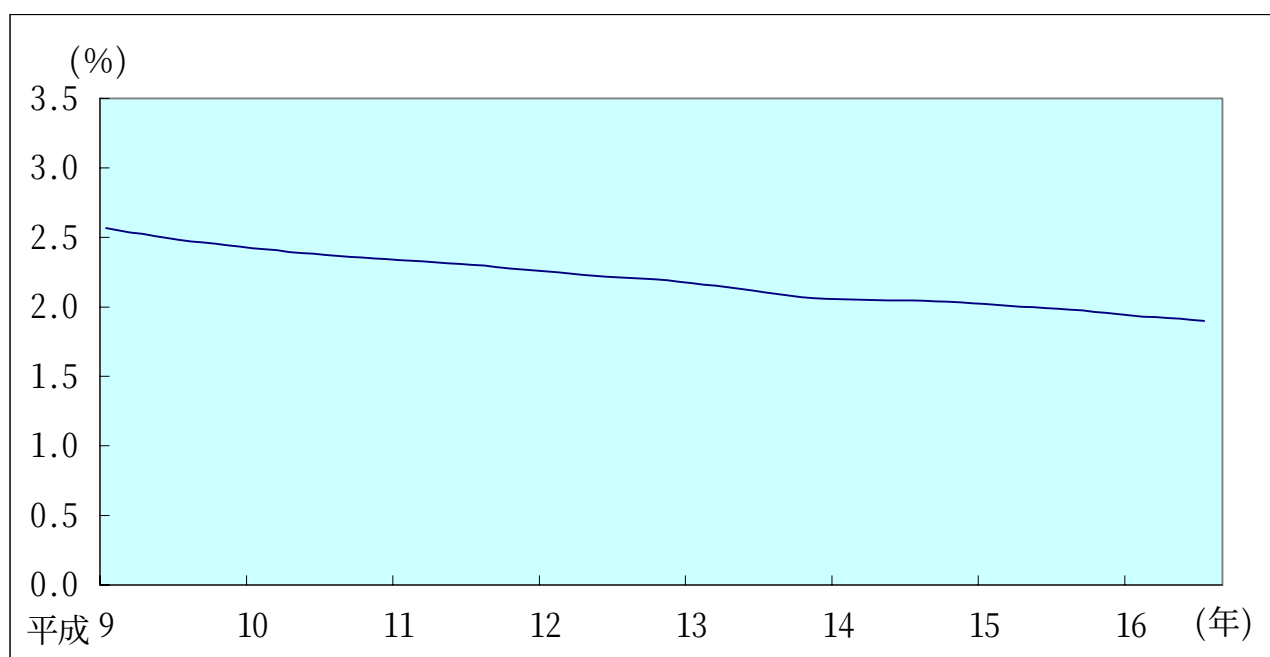


④ 貸出約定平均金利

季節調整値

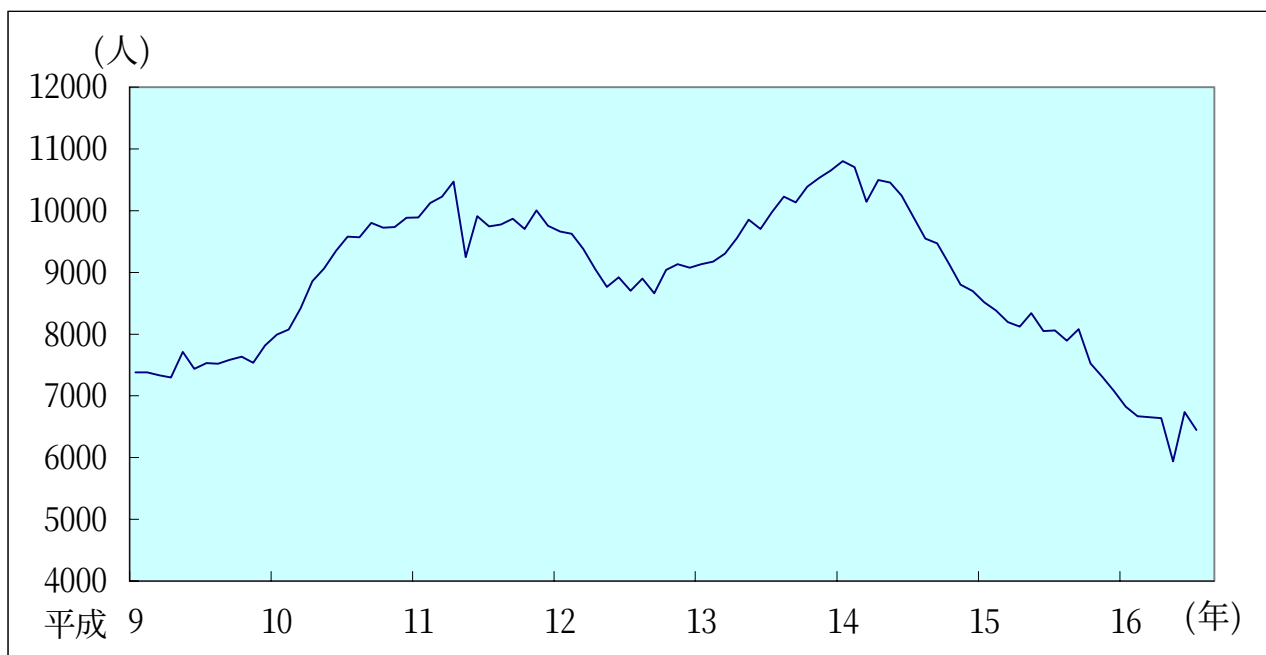


12 か月移動平均

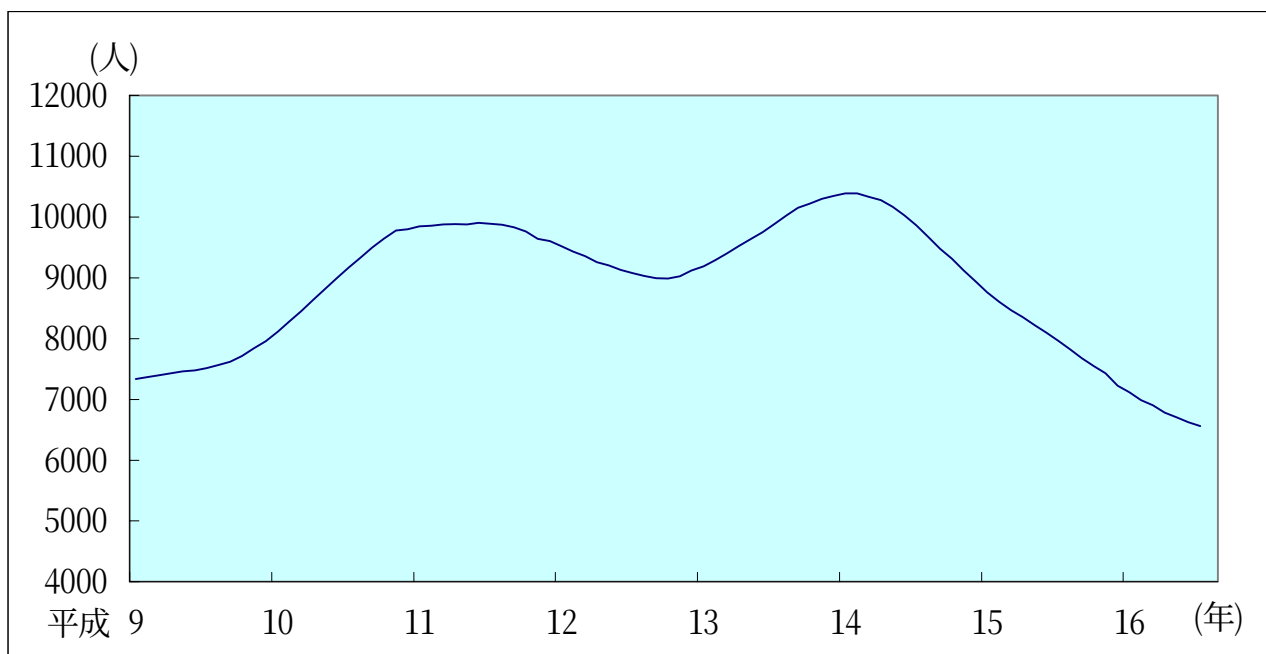


⑤ 雇用保険受給者数

季節調整値

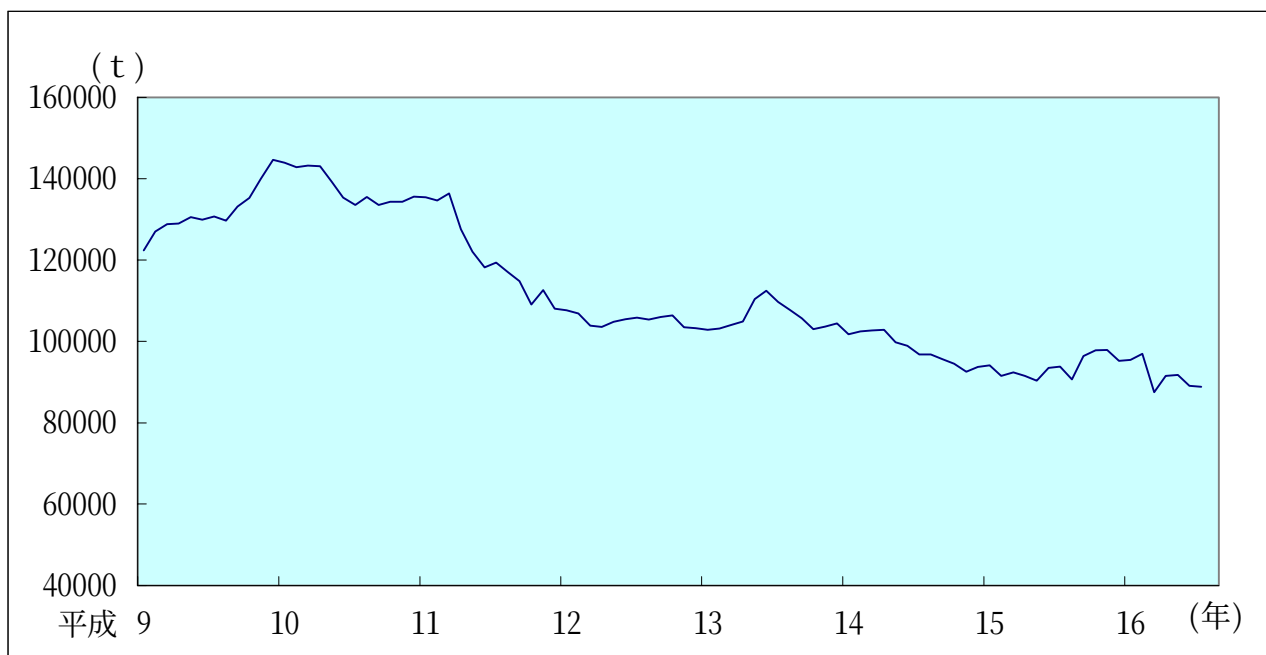


12 か月移動平均



⑥ 営業倉庫在庫高

季節調整値



12 か月移動平均

